



国際ロータリー第2760地区

2011年～2012年度

国際奉仕委員会報告書



サワナケートより メコン川に沈む夕日

2011-12年度 RIテーマ



カルヤン・バネルジー
2011-12年度国際ロータリー会長
インド、グジャラート

2011-12年度には、まず自分自身を見つめ直すこと、すなわち「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」のテーマを実践していただきたいというのが、ロータリアンの皆さまへの私からのお願いです。深く自己を省みることによって、人類が皆、同じ夢、同じ希望、同じ願望、同じ問題を分かち合っていることを、理解していただきたいのです。誰であろうと、どこに住んでいようと、私たちはそれぞれ、同じように平和と充足を願い、充実した毎日を送りたいと望んでいます。人に何かを与えるようとするなら、まず自分自身にそれを与えることです。なぜなら、自らが抱く望みを理解せずして、人々の望みを理解することはできないからです。

全世界で平和について語る前に、まずは自分から始め、その後で外に目を向ける必要があります。心に平和を見出していくこと、家の中に平和をもたらし、家族に平和をもたらし、そして地域社会に平和をもたらすことができるのです。同様に、全世界で平和を築こうとする前に、まず自分の家庭で平和を築き、全世界で友情と寛容の心を育もうとする前に、まず自分の周りの人々に対してそれを実践しなければなりません。言い換えれば、心が平和であれば、家庭が平和になり、この平和をほかの人々と分かち合うことができるということです。愛する人、大

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

強調事項

家族・継続・変化

ロータリー歴

2011-12年度	国際ロータリー会長
2001-05年度	ロータリー財団管理委員
2008-09年度	ロータリアン行動グループ委員会委員長
1995-97年度	国際ロータリー理事
1980-81年度	地区ガバナー

切な人と一緒にいることに喜びと満足を感じるように、私たちは、他者を大切にすることができるのです。

自分が強くなれば、共に生きる人々や家族も強くなります。そして、強い家族を土台として、前進していくことができるのです。うちに強さを秘めた人々が協力すれば、人類にもより良く奉仕することができます。これこそ、私たちがロータリーで行っていることです。

次年度には、ロータリーの奉仕において3つの強調事項に力を注いでいきたいと思います。第一に、強い家族を築くこと、第二に、私たちが一番得意とすることを継続していくこと、最後に、変える必要があることは変えるということです。

年度の第一の強調事項は、「家族」です。万事は家族から始まります。私たちが行う奉仕すべて、また世界で成し遂げたいと望むことすべての出発点は、家族にあります。そして、あらゆる家族の中心を成しているのが、母と子です。ここから始めてこそ、人々の生活や地域社会全体を通して、世界をより良くしていくことができるのです。

第二の強調事項は、「継続」です。私たちが得意とすることは何かを知り、それを継続しながら次のレベルへと高めていくことです。私たちは皆、ロータリーの奉仕

で成功を収めてきました。これらの成功を土台に、今後もさらに多くの人々に手を差し伸べていくことができるでしょう。ですから、きれいで安全な水の提供、疾病の予防、識字率の普及、新世代のための活動や新世代との協力、平和への努力といった活動を、これからも続けていかなければなりません。

同時に、改善できること、変えるべきことがあることを、私たちは知っています。こうした事実を勇気をもって見据え、変えるべきことは何かを見定め、必要な変化をもたらしていくために行動していかなければなりません。

マハトマ・ガンジーはかつて次のように述べました。「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない」。ロータリーにおいては、私たちは、友情と親善を分かち合い、あらゆる人々の真の価値を見極めるために、倫理的に、誠実に生きようと努力しています。ロータリアンは並みのことには満足しません。なぜならロータリーは非凡な組織であり、ロータリアンは類まれな人々だからです。私たちが自分自身を高めることによって、世界を高めようと取り組むのは、このためなのです。

私たちは皆、ロータリーを通じて世界を変えたいと望んでいます。ロータリアンとなる理由は、まさにこれに尽きるのではないか。幸せと健康と平和にあふれた世界をつくることができる、過去よりも明るい未来を築くことができると、私たちは信じています。理想主義者である私たちは、ロータリーの奉仕を通じてこの理想を実現しているのです。

2011-12年度の第三の強調事項を「変化」としたのは、このためです。世界に望んでいる変化に、まず私たち自身がなることです。平和を望むなら、家庭に、地域社会に、自分自身の生活に平和をもたらすことから始めるのです。ボリオやほかの病気を世界からなくし、環境破壊に歯止めをかけ、子どもの死亡率を減らし、識字率を高め、飢えを減らしたいと望むなら、自分自身がこの変化の担い手とならなければなりません。それには、まず自分の中にこそ変化を起こすことの必要性を認識しなければならないのです。

「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」。平和、調和、そして友情の精神の中で変化をもたらし、すべての人々のために、さらに喜びある世界を築いていこうではありませんか。

Kalyan Banerjee

2011-12年度国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー

国際協議会でのRI会長の挨拶

まずははじめに、全世界200を超える国と地域よりここにお集まりくださった532地区のリーダーである皆さまを、妻のビノタとともに心から歓迎申し上げます。

この会場にお越しになった際、入り口に掲げられた「入りて学べ」という言葉をご覧になられたことと存じます。私たちが成すべきことは、その文字の記す通りです。私は、謙虚な気持ちで皆さまと向き合い、これから学びの5日間に私たちが共に達成すべきことを明確に描きながら、この場に臨んでおります。これから私たちが共にする経験は、決して忘れる事のない意義深いものとなるでしょう。

ここで、しばし皆さまのまわりにどのようなお仲間がおられるかご覧ください。右隣、左隣、そして前と後ろにおられるのは、皆さまの新しい友人です。どうぞ見回してみてください。国も文化も宗教も異なる方、あるいは違う言語を話し、違う服装を身につけている方かもしれません。こうした違いにもかかわらず、私たちには一つの共通点がございます。それは、私たちが皆ロータリアンであることです。同じ希望と夢を持ち、子供や孫、家族の安全と幸福のために同じような願いを抱いています。これからの数日間、出会い、挨拶を交わし、食卓を共にし、共に学ぶ中で、私たちの友情は深まっていくことでしょう。そしてここにいる誰もが、この機会を待ち望んでいたはずです。皆さま、どうぞご起立ください。席を立ち、前後左右のお仲間と握手を交わしてください。さあそれでは、早速やってみましょう。

ありがとうございました。本日は、皆さまにとりましても、私にとりましても、誠に特別な日でございます。輝かしい元会長の皆さまをはじめ、理事や管理委員、役員の皆さまという、この偉大な組織の過去、現在、将来のリーダーたちが一堂に会しています。

さて、何からお話しすればよいでしょうか。まずは、ロータリーの歴史を紐解くところから始めてまいりたいと思います。

1997-98年度に低コストのシェルター・プロジェクトに着手したのは、オーストラリアのグレン・キンロス元会長でした。このプロジェクトがきっかけとなり、インドの第3260地区、ライブルのロータリー・クラブに、地方自治体から3ヘクタールほどの土地が与えられることになったのです。そこに1軒につき800米ドルの費用で、約33平方メートルのシェルターが500軒建てられました。1軒のシェルターに対して、オーストラリアのロータリー・クラブが300ドル、現地の3クラブが100ドルを寄付し、残りは財団のマッチング・グラントから資金が提供されました。シェルターの完成に合わせて、ライブルのクラブ

が地元の新聞に広告を掲載したところ、およそ5,000件の申し込みがありました。そこで、ロータリアンたちは、抽選によってシェルターの利用者を選ぶことにしたのです。抽選当日、シェルターのそばの空き地に、ロータリアンや3,000人ほどの人々が集まりました。私も4,000キロメートル近く離れたムンバイから飛行機で駆けつけました。

確か135人目の当選者だったと記憶しているのですが、アニサ・ベゲンという名前が発表されると、白いサリーをまとった細身の女性が群衆の中から立ち上がり、ステージへと進み出て、厳かに当選の証書を受け取りました。しかし、その女性は立ち去ろうとはせず、係りのロータリアンに、「一言、お話しさせていただいてもよろしいでしょうか」と申し出たのです。彼女の真摯な様子に、そのロータリアンは「一分だけですよ」とマイクを渡しました。すると、女性はこのように話し始めました。

ロータリアンの皆さん、私はあなた方のことを知りませんし、あなた方も私のことを知らないでしょう。私は3年前に、夫とまだ幼い3人の子供たちと一緒にライブルに引っ越ししてきました。私たち一家は小さな部屋に暮らしていましたが、ある日外から戻った夫から突然、『アニサ、お前とはこれまでだ。ほかに女ができた』と離婚を言い渡されたのです。そして『タラー、タラー、タラー（離婚だ、離婚だ、離婚だ）』と3度繰り返し、荷物を一つにまとめて夫は出ていってしまいました』

「私は途方に暮れました。翌日、大家さんから立ち退きを言い渡されました。夫が家賃を払っていなかったのです。私は子供たちを連れてさまよい歩き、駅の構内やバスターミナルで夜を過ごしました。警備員に追い出され、野良犬と一緒に道端で一夜を明かしたこともあります。子供たちはひもじさと寒さと病気のせいで、いつも泣いてばかりいました。私はたまに公衆トイレの掃除をするくらいしか仕事がなく、食べ物や薬を買うお金もありませんでした』

「そんなとき、親切な方が現れて、シェルター・プロジェクトのことを教えてくれ、読み書きのできない私に代わって、申請書まで書いてくれました。そのおかげでここに来ることができたのです』

そこまで話すと、その女性はステージの上で突然座り込み、何千人の前でこう言いました。

「ロータリアンの皆さん、あなた方が私にしてくださったことが、どんなことかお分かりですか。あなた方は、私と子供たちに新しい人生を与えてくださいましたのです。本当に、本当に、本当にありがとうございました』

彼女は人目もはばからず、すすり泣き出しました。恥ずかしながら、話を聞いていた私たちも、もらい泣きし

てしまいました。しかし、その場に居合わせた誰もが、あの涙を通じて、ロータリアンとなったことの眞の意味を、深く理解することができたのです。

12年前のあの日以来、私は、同じ人間である人々に希望と尊厳と自信をもたらすには、住む家を提供するのが一番の方法だと信じるようになりました。家族は家から始まります。あらゆる家族の中心を成しているのが母と子です。そして私たちの住む地域社会とは、単なる個人の集まりではなく、家族によって築かれています。一つ屋根の下に暮らし、互いを支え、助け合い、共に運命を分かち合っているのが、家族というものです。良き家族が、良き隣人となり、良き地域社会をつくり、ひいてはそれが偉大な国を築くことになるのです。

来る年度、第一の強調事項を「家族」としたのは、私たちの目標のすべてが家族を中心に関えているからです。そうしてはじめて、安全な家、水と衛生、疾病予防、そして母子にかかるすべての問題について考え始めるようになります。家族が強くあるためには、まず、しっかりととした安全な家がなくてはなりません。その家があつてはじめて、健康や希望がもたらされ、家族の調和が生まれるのであります。

もう何年も前のことになりますが、私はカルカッタのマザー・テレサと共に奉仕させていただいた機会に恵まれました。マザー・テレサは、このように言っておられました。「世界がひっくり返り、苦しみにあふれているのは、家庭の中、そして家族の間に、愛が欠如しているからです。子供のための時間も、家族の時間も、共に楽しむ時間もありません。愛は家庭から始まり、家庭に息づくものです。今日、世界にこれほどの苦しみと不幸せがはびこっているのは、その愛が足りないせいなのです。皆が忙しさに追われ、子が親と過ごす時間、親が子と過ごす時間がほとんどありません。世界平和の崩壊は、まず家庭から始まるのです」

平和を取り戻すには、家庭と家族から始めなければなりません。

第二の強調事項は、私たちが一番得意とすることを継続していくことです。なぜなら、私たちには得意とすることが数多くあるからです。きれいで安全な水の提供、識字力の向上のほか、新世代という新たな奉仕部門を通じて、明日のリーダーとなる青少年を育成する活動などが、その代表的な例です。もちろん、ボリオ撲滅にも継続して力を注いでいきます。私たちはゴールに限りなく近づいています。デズ蒙ド・ツツ大主教が語るように、ボリオは「あと少し」で撲滅できるのです。これらすべてを行うためには、引き続き長期計画に沿って、こうした活動を発展、充実させ、さらなる高みへと進化させていかなければなりません。そして、ロータリー財團の未来の夢計画を支援していくかなければなりません。

発展は繁栄につながり、繁栄は平和につながります。ですから、これからも地域を育む活動を続けていきまし

ょう。インドのクラブのように、ダムや橋を建設するという大きなプロジェクトもよいでしょう。あるいは、学校の教室に机や黒板や扇風機を備えるといった小さなことでもよいでしょう。始めてみれば、本当に大切なのはプロジェクトの規模ではなく、誰かの必要を満たしてあげたいという意志であるとお気づきになるはずです。「難しい」仕事は今すぐにでき、「不可能な」仕事は少々余分に時間がかかるだけだということを、私は経験から学んでまいりました。

大きな行為はもちろんですが、小さな行為にも人の人生を変える力があることを、忘れずにいたいものです。ポンと肩をたたいてあげたり、励ましの言葉をかけてあげたり、時には微笑みを投げかけるだけで、相手に笑顔をもたらすことができるのです。こちらが笑えば、周囲が共に笑ってくれます。私たちの年度の目標に加えてさらにもう一つ、来る年度を笑いと喜びと幸せの年度にしてまいりましょう。ロータリアンも配偶者も含め、皆が、1日3回は笑顔を交わすようにしましょう。そうすれば、一日800万の笑顔をもたらす計算になります。たとえ偉業を成し遂げることがかなわないにしても、大きな愛をもって小さな善を行うことなら、いつでもできるはずです。ロータリアンとは、ロータリーの奉仕を通して理想を形にする現実的な理想主義者であると、私は考えます。私たちは「四つのテスト」を拠り所として、友情と親善を分かち合い、あらゆる人の中に眞の価値を見出しながら、倫理的に、誠実に生きようと努めています。ロータリアンは並のことには満足しません。なぜならロータリーは非凡な組織だからです。私たちが自分自身を高めることによって、世界を高めようと取り組むのは、このためなのです。

ですから、改善できること、変えるべきこと、始めるべきことに目を向けましょう。こうした事実を勇気をもって見据え、変えるべきことは何かを見定め、行動していかなければなりません。私たちは皆、ロータリーを通じて世界を変えたいと望んでいます。ロータリアンとなった理由は、まさにこれに尽きるのではないかでしょうか。過去よりも明るい未来を築くことができると、私たちは信じています。私は、マハトマ・ガンジーの「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない」という言葉が好きです。

2011-12年度の第三の強調事項を「変化」としたのは、このためです。世界に望んでいる変化に、まず私たち自身がなることです。平和を望むなら、家庭に、地域社会に、自分自身の生活に平和をもたらすことから始めるのです。環境破壊に歯止めをかけ、子供の死亡率を減らし、飢えを減らしたいと望むなら、自分自身がこの変化の担い手とならなければなりません。それにはまず、自分自身の中にこそ変化を起こすことの必要性を認識しなければならないのです。

変化をもたらすには、常識の枠を超えて考える必要が

あります。私たちと同じような活動をしている団体と協力し合う可能性を探る必要があります。私は、ロータリーと国連が共生関係にあると考えることができます。ミレニアム開発目標に協力して地域社会のニーズに応えることによって、この関係をさらに発展させることができます。また、ロータリアン行動グループも頼もしい存在です。安全な水、マイクロクレジット、エイズ予防、識字などの分野で、承認されて間もないながらも、既に実績を備えたグループが、能率的かつ効率的に奉仕するためのロータリーのリソースをさらに補強してくれることでしょう。

これまでと同じく、次年度にも力を入れる必要のある目標分野は、二つあります。一つ目は、ロータリーの活動を担う新しい会員を増やすことです。ユーチューブやフェイスブックに精通した、今世代の若く新しい会員の勧誘に焦点を当てるべき時は、もうとっくに到来しているのです。彼らは誘われるのを待っています。ですから、彼らに扉を開いてあげなくてはなりません。世界のあちらこちらで、少しずつこのような受け入れ体制が整い始めています。しかし、ロータリー独自のネットワークをますます広げるには、世界中でこれを実行する必要があります。私が申し上げたような変化に力を注ぐなら、結果は必ずついてくるはずです。

もう一つ力を入れるべき分野は、世界にロータリーの物語を巧みに語り伝えることです。こんなに良い仕事をしているのだから、世界が見てくれているはずだと、私たちは思い込んでしまいがちです。しかし、大抵、世界はロータリーの活躍に気づいていません。エバンストンの国際ロータリー本部から百メートル程度のところにいる学識ある人々ですら、「ロータリーって何ですか」と言うあります。ですから、私たちは、現代的で独創性にあふれ、よく練られた方法で、ロータリーの物語を世界に伝える必要があるのです。新聞や雑誌には暗いニュースの記事ばかりがあふれています。ですから、私たちが心温まる話を語らなければなりません。国や地域によって、伝え方は異なるかもしれません、私たちは語るに値する話があるのですから、それを伝える必要があるのです。

本日、私たちは、人生の貴重な1年間をロータリーに捧げる覚悟を決めたのですから、私たち一人ひとりに、果たすべき役割があることをしっかりと理解しておきましょう。それぞれの国に戻り、ただベストを尽くすと言うだけでは不十分です。私たちは、全力投球し、やるべきことは必ず成し遂げると自らに誓う必要があるのです。

これを成し遂げるための決意と力は、皆さま一人ひとりの中から引き出されるものですから、皆さま全員がきっと成功を認められると確信しております。何かを成し遂げようと思うなら、ありとあらゆる知恵を振り絞らなければなりません。それには、まず自分自身の内側から始めるしかないのです。「私はなぜここにいるのか。あ

なたはなぜここにいるのか」と、自らに問い合わせてみるべきです。その答えを申し上げましょう。それは、私たちは誰しも人生の充足を求めており、今私たちが担わんとしている責務が、まさにその充足の一部であるからこそ、私たちはここにいるのです。

この充足を得るには、内なる自分と外なる自分との均衡を図る必要があるでしょう。内なるものが願望や意志や気力であるのに対して、外なるものとは自らが取る行動や創り上げるイメージです。ですから、こころの中を見つめ、内に秘めたる力を解き放ち、その力を駆使して、まわりのすべての人、すべての物を受け入れるよう、皆さまにお願いしたいと存じます。どうぞ、まずご自分自身を見つめ直してください。それから、ご自分が定められた目標に向かって、一歩一歩、自信を持って進んでください。自らを発見し、潜在的な力を引き出し、迷わず、ひるむことなく、「出でて奉仕し」、世界で博愛を広げてください。次年度のテーマは、このことを言い表した「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」です。

では、どのように実践すればよいのか。それは、これまでお話ししてまいりました通りです。世界中のすべての灯りも、自身の内にある一條の光の尊さには及びません。皆さまのこころに愛と献身の光が輝くよう、理解の光が射すよう、家庭に調和のともし火がともるよう、そして皆さまの手から奉仕の明るい光が絶え間なく輝くよう、私は願っております。

最後にある話をご紹介いたしましょう。私の愛読書に、トルストイの大河歴史小説「戦争と平和」があり、これはロシア遠征が失敗に終わるナポレオン軍を描いたものです。この話の中に、フランス軍がすぐそばまで迫り、絶体絶命の窮地に立たされた2人のロシア人、将校とその友人が会話している場面があります。

将校に向かって友人が、「勝利をもたらすのは武器だ」と言います。

将校は、「いや、勝利を決めるのは武器ではない」と反論します。

すると友人は、「だとしたら、一体何なのだ」と尋ねます。

将校は一瞬を置いてから、このように答えます。「勝利を決めるのは、僕やこの男の中にある気持ち、兵士一人ひとりの中にある気持ちだ」

なぜ、この話で本日のお話を締めくくろうとしているのかと申し上げますと、一つには、戦争と平和についてロータリーで多く語られてきたことが挙げられます。しかし、それ以上に、私はこの20分間のお話の中で、ロータリアンとは、ロータリーとは、まさに皆さまの中の気持ち、ある人間の中にある気持ち、私の中にある気持ちであることを伝えたかったからです。

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」このテーマを胸に、この国際協議会が皆さま一人ひとりのご期待に添う体験となりますよう、心より願っております。

経歴

カルヤン・バネルジー氏は、Uniphos Agro Industries Limitedの国内最大の農薬メーカーであるUnited Phosphorus Limited社の理事、ならびに同社バンガラデシュ支社の会長を務めています。1942年、インドのカルカッタで生まれたバネルジー氏は、インド工科大学カラグブル校で化学工学を専門に学び、1964年に卒業しました。現在はインド最大規模の工業都市であるグジャラート州のバビに居住し、これまでに保健と教育の分野におけるインフラ整備に深く関与して発展に大きく貢献してきました。

1972年にバビ・ロータリー・クラブ会員となって以来、ロータリーのありとあらゆるレベルで活躍してきました。1975年に同クラブの会長となり、1980年には地区ガバナーを務めました。

1995年には国際ロータリーの理事に選出され、国際レベルで活躍し始めました。1997年に貧困および飢餓緩和グループでゼネラル・コーディネーターに任命され、2001年にはロータリー財団の管理委員を務めました。その後、インターナショナル・ボリオ・プラス委員会委員（2008-09）、東南アジア・ボリオ・プラス委員会委員長（2009-10）、アフリカ支援委員会委員（2009-10）、リーダーシップ教育・研修委員会委員（2009-10）、インド恒久基金委員会委員（2008-09）、子供の死亡率低下強調委員会委員（2008-09）などに加え、その他さまざまな委員会を通じて経験を積んできました。

バネルジー氏はまた、アメリカ化学会（American Chemical Society）やインド化学工学会（Indian Institute of Chemical Engineers）で活躍し、ヴィシュヴァ・バーラティ大学では評議員を務めています。また、バビ工業協会（Vapi Industries Association）の会長を2回、インド産業同盟（Confederation of Indian Industry）のグジャラート支部長を務めた経歴もあります。さらに、ジャイ研究財団（Jai Research Foundation）とロータリー人道賞基金（Rotary Awards for Humanity Trust）などの団体の管理委員を務めています。

配偶者のビノタ夫人は活発に社会活動を行っており、夫婦には2人のお子さんと4人のお孫さんがいます。



カルヤン・バネルジー夫妻

2011～2012年度 国際奉仕 (世界社会奉仕)

佐藤 文昭

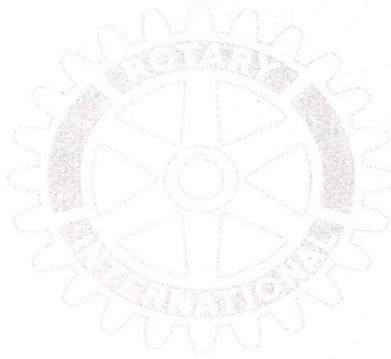
松前憲典ガバナ一年度で初めて地区として国際奉仕委員会の活動を実施させて頂きました。
RIでは、世界社会奉仕は国際奉仕委員会に含まれるということになりました。(概念上国際奉仕の一般的分野に分類される)

その他、国際奉仕は国際レベルの教育的及び文化的な交流活動、特別月間と催し、国際な会合という分野を持っています。ロータリアンの責務として国際理解と親善と平和を推進するという項目があります。今年度私は世界理解月間に於いて飢餓と貧困について考えてみました。

この地球上に70億人以上の人々が暮らしていますが、1日1ドル以下で生活している人、約12億人 約5人に1人、飢餓状態にあるか不安定な食糧供給に依存している人 約8億4000万人 約8人に1人というものすごい数の人々が苦しんでいます。日本の社会で生活している私達では考えられない様なことが、この地球上で起こっているという事が理解できます。(今後ももっと調査をしたいと思います。)

国際ロータリーは世界に目を向けて、他国の人々と交流し親善と役に立つプロジェクトを立案しクラブ活動を推進できるように今後も活動が、次年度、次々年度とつなげられるような、国際奉仕の第1歩となつた今年度ではないかと思います。

地区内クラブにおいて地区プロジェクトに参加してくださった方々、クラブで国際奉仕活動へ参加してくださった方々、皆様の協力と支援していただいた方々に心より感謝申し上げます。



国際ロータリー第2760地区

国際奉仕活動報告書

2011年～2012年版

地区内各クラブの報告



サワナケート保健科学短期大学

事業名 : ブータン王国への書籍寄贈事業

クラブ名 : 半田 RC

クラブ会長 : 鈴木 丈雄

クラブ国際奉仕委員長 : 稲葉 民安

報告書作成者 : 稲葉 民安

相手国及び地域 : ブータン王国 cc

協力 RC 又は協力団体 : 半田ブータン青少年交流協会

総予算 (内クラブ負担額) : 222, 748 円 (200, 000 円)

事業内容 :

昨年度は、辞書を寄贈し、今年度は、253種類の本350冊余りを寄贈した。

事業名 : タイ障害児への車椅子寄贈と障害児宅の生活支援 (バリアフリー化工事)
 クラブ名 : 常滑 _____ RC
 クラブ会長 : 牧野克則 _____
 クラブ国際奉仕委員長 : 伊奈正彦 _____
 報告書作成者 : 幹事 磯部 栄 _____
 相手国及び地域 : タイ _____ cc
 協力RC又は協力団体 : タイ スリウォンRC _____
 特定非営利法人 アジア車椅子交流センターWAFCA Thailand _____
 総予算 (内クラブ負担額) : 505,000 円 (414,000 円)

事業内容 :

<障害児への車椅子支援 (車椅子18台の寄贈と障害児宅バリアフリー工事化3ヵ所) >

車椅子18台寄贈



<バリアフリー化工事>

3軒の工事 (自宅建屋の床舗装・トイレと通路の舗装・自宅前の舗装)



2011～2012 年度 WCS活動報告書

東海ロータリークラブ 国際奉仕小委員長 大久保 誠人

東海ロータリークラブでは、毎年WCS活動として、フィリピンとタイで現地のロータリークラブを通じて奉仕活動をしています。今年度も引き続きこの活動を行いました。

(1) フィリピンでのWCS活動報告

日 程 : 平成23年7月9日(土)～11日(月)

訪問先 : フィリピン 3810 地区パサイ-ミアRC・3800 地区カルーカン-ノースRC

参加者 : 鈴村昌人会長、小島博也幹事、はじめ計7名

7月9日(土)午前9時30分にセントレアを出発し、現地時間午後1時30分頃マニラに到着。先ずパサイ-ミアRCの「ウィークリースープキッチン」を訪問しました。生憎の雨にもかかわらず、そこには子ども達とその家族ら約100名近い人達が集まってセレモニーが行われました。当クラブの鈴村会長の挨拶のあとパサイ-ミアRCのメンバーの奥様で国會議員のエミー女史からこの「ウィークリースープキッチン」の趣旨と意義について「子ども達の健康のために、栄養のある食べ物を配り、より健康な子ども達を育てるための事業です」との挨拶がありました。また、子ども達は学校では3人で一冊のノートを共有しているため、当クラブのメンバーから子ども達全員にノートと鉛筆を配り、セレモニーは無事終了しました。

続いて、午後5時よりカルーカン-ノースRCとの合同例会を行いました。当クラブが支援している奨学生も参加して、いろいろと意見交換をしました。カルーカン-ノースRC会長は挨拶の中で「東海RCには小嶋洋一先生から始まって、20年の長きに亘って支援していただいたことがカルーカン-ノースRCの支えになり、その頃の子ども達が今や大学生や立派な社会人になって社会貢献している」と謝辞を述べられました。また参加した奨学生達からも感謝のメッセージなどを頂き、当クラブのWCS活動が確実に実を結んでいること、そして長く続けていくことがいかに大切であるかを実感しました。その後、皆で食事やプレゼントの交換をしながら和やかな雰囲気の中で、最後に再会を約束して合同例会は無事終了しました。



「ウィークリースープキッチン」の子ども達



カルーカン-ノースRCとの合同例会

(2) タイでのWCS活動報告

日 程 : 平成24年2月24日(金)～28日(火)

訪問先 : タイ 3360 地区 ウッタラジットRC・ピチャイRC・シラーアートRC

参加者 : 鈴村昌人会長、小島博也幹事、はじめ計10名

2月24日(金)午前11時にセントレアを出発しバンコク経由でチェンマイに飛び、1泊しました。2日目は、チェンマイからウッタラジットへバスで5時間かけて移動です。途中でエレファントレーニングセンターやスコータイ王朝の副王都シー・サッチャナーライ遺跡を見学して、夕方ウッタラジットのホテルに到着。そこでは、大勢のロータリアンが出迎えてくれ、その後、ウッタラジットRC・ピチャイRC・シラーアートRCとの合同例会が開催されました。例会の中で支援金の贈呈を行い、先方からはいろいろなお土産をいただきました。合同例会は回数を重ねてきていたためか、とてもスムーズで楽しく進行しました。

そして3日目は支援施設の見学です。今回はピチャイRC地域の二つの学校を訪問しました。二つの学校とも浄水施設が出来上がっていました。一つ目の学校では、小学校の生徒さんが約20名とロータリアン、学校の先生や生徒さんの父兄の方で計50人から60人くらいの方の出迎えがあり、浄水施設のテープカットや生徒さんからはいろいろな地方の民族舞踊などを見せてもらい大変感激しました。その後二つ目の学校に行き、そこでも浄水施設が出来ているのを確認しました。昨年訪問した時には、ここに施設を作る予定ですと言われて、本当に作ってくれるかどうか心配しましたが、きちんと施設が出来ていてホッとしました。この様に、タイにおける当クラブのWCS活動もこの地に根付いてきていて、毎年の支援金で子ども達の教育のためのインフラ整備に十分活用されていることが確認できました。



合同例会で各RCのメンバーと一緒に



完成した学校の浄水施設

当クラブではWCSタイ訪問を例年11月を行っていますが、今年度はタイの大洪水のため、本年2月に延期いたしました。昨年11月には「タイ洪水被害義捐金」を会員から募り、義捐金15万円をウッタラジットRCに送りました。

※ 4月25日(水)に開催されました地区の第2回国際奉仕委員長会議にて、当クラブの小嶋洋一君が「東海RCのWCS活動の経緯」について講演をいたしました。

事業名 : タイ・カンチャナブリ養護学校へ図書支援事業

クラブ名 : 半田南 RC

クラブ会長 : 中井民雄

クラブ国際奉仕委員長 : 都築延男

報告書作成者 : 都築延男

相手国及び地域 : タイ国 カンチャナブリ cc

協力RC又は協力団体 : カンチャナブリRC・バンコクスリウォンRC

総予算(内クラブ負担額) : 260,000円 (133,520円)

事業内容 :

本年度半田南RCは、新地区補助金を申請し、タイ国3330地区カンチャナブリの養護学校への図書支援活動をしました。1月21日～25日の日程で中井会長以下9名のメンバーで訪問しました。当日はカンチャナブリRC会長はじめ10名のメンバーとバンコクスリウォンRC中村さんにお手伝い頂き、600冊ほどの本と折り紙を贈呈してきました。折り紙は日本からメンバーに分散して100束持つて行き、現地で子どもたちとロータリアンが汗を流しながら教え合ってドラえもんを折ってきました。

最終日には友好クラブでもあるバンコクスリウォンRCさんへ、昨年末からのタイ洪水の支援金を渡して帰国しました。



事業名 : WCS 活動
 クラブ名 : 大府 RC
 クラブ会長 : 門脇 武
 クラブ国際奉仕委員長 : 久野春雄
 報告書作成者 : 久野春雄
 相手国及び地域 : フィリピン cc 3800
 協力 RC 又は協力団体 : バレンズエラ RC
 総予算 (内クラブ負担額) : 200.000 円 (123.120 円)
 事業内容 :



2011年11月3日から11月7日の日程でフィリピン マニラ
ヴァレンズエラ市に門脇会長・加藤幹事含め5名で行ってまい
りました。この事業は第3800地区 ヴァレンズエラロータリー
クラブと協力して行いました。

「口唇口蓋裂」は話す時に空気がもれる為しっかりと発音でき
ないので子どもたちは自分の意思を伝えることが難しく、自信
をなくしたり引きこもったりしまったりするようになります。こ
の治療を行うことにより、子どもたちの一生を救うことが出来
るのです。と感謝の言葉を直に聞くことができました。日本で
も一定の割合で発生していますが、医療の充実している日本で
はいち早く治療が行われ未治療患者は見かけません。しかし、
フィリピンでは月収1万円前後の家計から10万円の治療費を捻
出るのは至難のことです。ヴァレンズエラロータリークラブ
は年間6名ないし7名を治療し、延べ200名を治療して來てい
ること、従って20年以上続けられているプロジェクトです。大変意義の有る奉仕活動を展開しているヴァレンズエラロ
ータリークラブに改めて敬意を表すと同時に支援できることに
幸せを感じます。



事業名 : ネパール未就学児童奨学支援 学校建設資金

クラブ名 : 一宮 RC

クラブ会長 : 日野正美

クラブ国際奉仕委員長 : 松田暁昌

報告書作成者 : 松田暁昌

相手国及び地域 : ネパール CC

協力RC又は協力団体 : さいたまユネスコ協会

総予算(内クラブ負担額) : 100,000円 (100,000円)

事業内容 : (内容につきましては写真も折込、A4用紙で自由にお使い下さい。)

ネパールへの恵まれない子供たちへの教育支援活動

里親として10名の子供が1年間通える学費制服等の奨学金を支援

学校建設のために寄付



認定NPO法人 さいたまユネスコ協会

2011年度 ネパールの生徒からの手紙

生徒コード 5613

親愛なる イチノミヤ ロータリークラブ 様
こんにちは。

私は元気です。あなたはお元気ですか。
私はあなたの奨学金で必要なものを買いました。
それは私の勉強を助けます。私はとてもうれしいです。

私の村は緑の丘に囲まれています。それはとても美しいです。
ぜひいらしてください。

写真を送ります。
大変な地震が日本で起きました。それは日本にダメージを与えました。私はラジオでそれを
聞きました。私たちはとても残念に思います。
私は教室で友達と撮った写真を送ります。

あなたの娘より

生徒名 ベマ ジェンディ より
学年(class) 記載なし 年生

・生徒の学校名	バルビカシ初等中学校
翻訳ボランティア氏名 (宜しければ記入ください、カタカナ名可)	

* 小学校 5年間 ・ 初等中学校 3年間 ・ 高等中学校 2年間 ・ 高等学校 2年間

合計 12年制により、学年の呼び方は1学年～12学年となります。

＊ フォーマット版の場合は、複数枚提出して下さい。

2011-08-26

(5618)

DEAR FOSTER PARENTS
ROTARY CLUB OF ICHINOMIYA
HEARTLY NAMASKAR!

5618

I AM FINE AND HOW ARE YOU? I HAVE BOUGHT MY NECESSARY THINGS WITH THE SCHOLARSHIP WHICH YOU'VE PROVIDED. IT IS HELPING FOR MY STUDY. I AM VERY PLEASED TO YOU.

MY VILLAGE IS SURROUNDED BY GREEN HILLS. MY VILLAGE IS VERY BEAUTIFUL. WOULD YOU PLEASE COME IN MY VILLAGE.

I'VE SENT YOU PHOTOS. A BIG AND BAD ACCIDENT TOOK PLACE IN JAPAN BY THE EARTHQUAKE IN MARCH 11. IT DAMAGED JAPAN VERY MUCH. I LISTENED IT IN RADIO SO WE ARE VERY SORRY. I'VE SENT YOU PHOTO IN WHICH I AM IN CLASSROOM WITH MY FRIENDS.

YOUR FOSTER DAUGHTER
PEMA JHENDI



事業名 : 友好親善相互訪問

クラブ名 : 津島 RC

クラブ会長 : 寺田 晏章

クラブ国際奉仕委員長 : 伊藤 幸蔵

報告書作成者 : 伊藤 幸蔵

相手国及び地域 : 中華民国 cc 淡水（台北滬尾 RC）

協力 RC 又は協力団体 : なし

総予算（内クラブ負担額） : 約 100 万 円（約 100 万 円）

事業内容 :

■2011年10月28日、姉妹クラブの台北滬尾 RC 会員を迎えて合同例会を開催し、姉妹クラブ締結の更新（5年）調印式を行いました。また、例会前後の数日間、県内の観光等にご案内して親睦を深めました。



■2012年4月16日、姉妹クラブの台北滬尾 RC 創立6周年記念例会に津島 RC 会員4名が訪問してお祝いしました。



尾張中央ロータリークラブ国際奉仕委員長 平岩慎次

事業名 : 地区一任 _____

クラブ名 : 尾張中央ロータリークラブ _____

RC

クラブ会長 : 沖野満 _____

クラブ国際奉仕委員長 : 平岩慎次 _____

報告書作成者 : 平岩慎次 _____

相手国及び地域 : _____ cc _____

協力 RC 又は協力団体 : 北名古屋市国際交流委員会 _____

総予算 (内クラブ負担額) : 15万円 (1万円 円)

事業内容 :

尾張中央ロータリークラブの国際奉仕活動は、地区一任としていますが基本的に人的支援として、現地への社会国際奉仕活動に参加しています。

今まで委員長の平岩は、人的支援としてラオスへの消防・医療・教育援助（ロータリー財団2005～6年度地区補助金委員長として）、ベトナム・ハノイへの身障者医療施設建設援助、台湾での社会国際奉仕打ち合わせ、中国内モンゴル自治区訪問、韓国務安郡郡長及び関連施設訪問（2009～10年度クラブ会長として）、インドへのポリオ薬物投与等の人的支援として参加してきました。

クラブメンバーにそれらの社会・国際奉仕活動の現状を視覚的にみてご理解頂きたいので、各数百枚の写真と映像を記録として持ち帰り、パワーポイントにて発表して社会国際奉仕の理解向上をしてまいりました。

またこれらの状況をパワーポイントにして、他クラブへの国際奉仕等の卓話をしてまいりました。

地区への協力参加は、お金の送金も大切ですが、それでは会員の感心も希薄となるので実際の現地の現場に立って貢献活動に参加する人的支援を重要として参りました。

しかし、昨年は東日本大震災がありクラブ内の目標と気持ちと仕事等の関係から、ロータリーの皆様と共にまず国内復興の援助優先と考え、心身ともに移行しました。

そのため2011～2012年度は、以前から入会登録している北名古屋市の国際交流委員会等に参加し、相互理解に努めてまいりました。

また呼びかけをしましたが上記の日本復興の優先事項もあり、今回のラオスWCS参加やタイの洪水の関係の国際大会、社会・国際援助の人的参加の実現には至りませんでした。

落ち着きましたらぜひ参加したいと思っており、次期委員長にもお伝えしたいと思います。

事業名 : 済州島ヨンジュRCとの交流事業

クラブ名 : 瀬戸 RC

クラブ会長 : 加藤令吉

クラブ国際奉仕委員長 : 青山 稔

報告書作成者 : 青山 稔

相手国及び地域 : 国際ロータリー 3660 地区 韓国済州島 ヨンジュRC

協力RC又は協力団体 : 地区米山奨学生 林韓燮 (イムハンソプ) 君

総予算 (内クラブ負担額) : 128,000 円

事業内容 :

瀬戸RCでは本年度の事業としまして下記のような事業を行いました。

瀬戸ロータリークラブの将来の国際奉仕事業を有効なものにする為、近隣国のロータリークラブと交流し親睦を深め、広い視野を養う目的で事業を計画しました。

近い将来、継続的交流が期待できる地域として第 3660 地区 (韓国・釜山、済州島) を選び、当クラブが世話クラブとなっている 2011 年度米山留学生の林韓燮君の協力を得て済州島・ヨンジュロータリークラブとの交流事業を行う事が出来ました。

加藤令吉会長を団長に会員 8 名、夫人 3 名、計 11 名で訪問団を結成し、3月 23 日～25日の日程で交流訪問をしました。

済州島ヨンジュ RC の例会 (歓迎セレモニー) に参加させて頂き、心温まる歓迎を頂き、双方、大都市近郊のクラブとしてどのようにして活動しているかなどの情報交換を中心に、親交を深めてきました。

来年度ヨンジュ RC メンバーの訪日、次年度我々瀬戸 RC メンバーの再度訪韓など将来展望のお約束をし帰ってまいりました。

もっとも近い隣国とはいえ、例会の進め方雰囲気など、我々の慣れ親しんだ方式の違いに多少の驚きも新鮮もありましたが、『ロータリアン』という一つの共通点だけで初めて会う人達との間にも『友情』というものが生まれるという事実に感動を覚えました。

今回の事業は、『国際奉仕』とはとても言える事業ではないかもしれません、国際奉仕は国際交流無くして行えない…と思い我々として第一歩を踏み出した事業であったと思います。

事業名 : 犬山文庫寄贈

クラブ名 : 犬山 RC

クラブ会長 : 安田 新平

クラブ国際奉仕委員長 : 宮岡 克年

報告書作成者 : 宮岡 克年

相手国及び地域 : 台湾 cc 草屯鎮

協力 RC 又は協力団体 : RI 第 3460 地区 台湾草屯扶輪社

総予算 (内クラブ負担額) : 400,000 円 (200,000 円)

事業内容 :

教育の援助と両国相互理解の発展に寄与する事業として、
姉妹提携クラブ草屯扶輪社と共同で「犬山文庫」を草屯鎮庁の図書館へ寄贈。(写真 : 2011
年 8月 18 日)



事業名 : NIHONGOスピーチコンテスト

クラブ名 : 瀬戸北 RC

クラブ会長 : 本多 敬文

クラブ国際奉仕委員長 : 平岩 太伸

報告書作成者 : 平岩 太伸

相手国及び地域 : 多数国 cc

協力RC又は協力団体 : 瀬戸市国際センター、瀬戸市

総予算(内クラブ負担額) : 不明 円 (200,000 円)

事業内容 :

今年で第4回目を迎えたNIHONGOスピーチコンテストに今年度も共催し、継続事業として1月22日を開催致しました。

今回は13名の出場者と170名の来場者があり、成功裏に終了することが出来ました。

当クラブは例会行事として参加し、会報[別添]においてご報告致します。

第4回 NIHONGOスピーチコンテスト 2012年1月22日(日) 於:瀬戸蔵2Fつばきホール 入場無料

第1部 スピーチコンテスト

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ●ゴレス・ジソン・バブル フィリピン | 「フィリピンと日本の電車のアナウンス」 |
| ●張 鑑(チョウ キン) 中国 | 「日本語の“かわいい”という文化」 |
| ●松永 秀美 中国 | 「私の街、私の隣人「子育て」」 |
| ●長江セリラ フィリピン | 「異文化おもしろ発見「おにぎり」」 |
| ●洪 雨(コウウ) 中国 | 「私の街、私の隣人」 |
| ●劉 盟(リュウメイ) 中国 | 「世界で広がる日本の漫画とアニメ文化」 |
| ●サエフル・アンワル インドネシア | 「異文化おもしろ発見」 |
| ●邱 智彬(チュー ズーピー) 台湾 | 「異文化おもしろ発見」 |
| ●ファジャネル・メリーン・ブエナフエ フィリピン | 「笑顔あふれる街」 |
| ●傅 巍善(フ ギゼン) 中国 | 「日本の陶磁器との出会い」 |
| ●俞 涌辰(ユ ゼイシン) 中国 | 「私の街、私の隣人」 |
| ●ディン チイ キム ハン ベトナム | 「異文化おもしろ発見「母性愛」」 |
| ●劉 歆歎(リュウ カンカン) 中国 | 「異文化おもしろ発見」 |



第2部

テンミュージックコンサート

演奏者

島袋ホセ、ミゲル・エスピノサ、ミゲール・ポンセ



閉会挨拶

瀬戸北ロータリークラブ 会長 本多敬文



皆さん今日は、今日は長時間最後までご参加いただきましてありがとうございます。この事業が皆さんのご協力によりまして続けることが出来ましたことに感謝を申し上げたいと思います。今後は瀬戸市国際センターと力を合わせ事業を継続していきたいと思いますので、皆様のご支援よろしくお願ひし、第4回 NIHONGOスピーチコンテストを閉会します。ありがとうございました。

懇親会



事業名 : グローバル補助金を活用したサンパウロ老人介護施設
マオブランカへの医療支援プロジェクト提案書作成

クラブ名 : _____ 名古屋南 RC

クラブ会長 : _____ 嶺木 昌行

クラブ国際奉仕委員長 : _____ 木村 樹生

報告書作成者 : _____ 木村 樹生

相手国及び地域 : _____ ブラジル サンパウロ

協力 RC 又は協力団体 : _____ サンパウロ南 RC

総予算 (内クラブ負担額) : _____ \$33400 (_____ 200,000 円)

事業内容 :

2011年11月26日～30日までブラジルはサンパウロ南 RC を訪問。グローバル補助金を活用した老人介護施設マオブランカへの医療支援プロジェクトの打ち合わせ並びにマオブランカ訪問。



サンパウロ南 RC 含む5RC で創立した
リオブランコ (小学校～大学)



老人介護施設マオブランカ

事業名 : 姉妹 RC サンパウロ南 RC 創立 60 周年式典出席

クラブ名 : _____ 名古屋南 RC

クラブ会長 : _____ 嶺木 昌行

クラブ国際奉仕委員長 : _____ 木村 樹生

報告書作成者 : _____ 木村 樹生

相手国及び地域 : _____ ブラジル サンパウロ

協力 RC 又は協力団体 : _____ サンパウロ南 RC

総予算 (内クラブ負担額) : _____ 488,000 円 (_____ 488,000 円)

事業内容 :

2012 年 4 月 17 日開催の姉妹 RC であるブラジルはサンパウロ南 RC 創立 60 周年式典出席。



サンパウロ南 RC60 周年式典

参加者は約 120 名



嶺木会長のお祝いメッセージ上映

祝辞



記念品授与

事業内容

当クラブの姉妹クラブ ネーパル・カトマンズのジャワラケル・マンジュシュリー・ロータリークラブを通じて 同国の女性職業訓練施設であるルーザートレーニングセンターへ現金 10 万円を寄付したほか、ボールペン等の文房具の差入を行いました。

その趣旨と経緯は、以下の通りです。

元米山記念奨学生で三重県鈴鹿市の大学に留学していたアルチャナ・ジョシさんが故郷のネパール・カトマンズに数年前に帰国され、母国の貧困女性に職業訓練を受けさせるための施設である「ルーザートレーニングセンター」を開設されたことを知りました。

ネパールは、カースト性の色が濃く残る国であり、女性の識字率もたいへん低く、職を持つうにも技術を習得する機会はほとんどなく、そのような環境下で、沢山の女性が貧困に喘いでいる実状を慮ってのことだったそうです。

私たちは、この施設に訪問し、職業訓練の様子を視察した上、姉妹クラブであるジャワラケル・マンジュシュリー・ロータリークラブを通じて 10 万円の寄付を実施する予定でしたが、訪問を予定していた 11 月の初旬には、経由地であるタイで洪水が発生し、渡航直前に訪問を取りやめましたがアルチャナ・ジョシさんの高い志に報いるべく、姉妹クラブを通じて寄付だけはさせて頂きました。

その後、タイで行われた RI 国際大会に当クラブからは 14 名が参加。

ネパールの姉妹クラブであるジャワラケル・マンジュシュリー R C からは 9 名が大会に参加され、5 月 6 日の開会式の後、両クラブ合同の夕食会を行いました。

その席上で ジャワラケル・マンジュシュリー R C を通じて文房具をルーザートレーニングセンターへ 渡していただくように依頼した次第です。

名古屋東南ロータリークラブ
国際奉仕委員長 南雲和江

事業名 : バングラデシュ教育者への教育および文化研修交流

クラブ名 : 名古屋栄 RC
クラブ会長 : 原野勝至
クラブ国際奉仕委員長 : 上坂寛文
報告書作成者 : 事務局 川合由起
相手国及び地域 : バングラデシュ cc
協力RC又は協力団体 : 無

総予算(内クラブ負担額) : 565,797 円 (305,957 円)

事業内容 :

当RCでは、数年前より継続的にバングラデシュの子供教育への様々な支援を行ってきた。今年度は、発展途上国であるバングラデシュの教育者に対し、高等教育・最新教育等及び異国の文化への見識を深める機会を提供する支援を企画。

バングラデシュより小学校の女性教諭3名を研修生として招待し、2012年5月15日(火)～23日(水)の9日間で、様々なスタイルの公立の小学校や私立の小学校視察を中心に、トヨタ博物館や実験設備等の見学、文化面としては、京都見学などを行った。

学校視察では、子供たちが歓迎会の場を設け、歌や琴、日本の遊びなどを披露たり、給食を共にし、サリーの着付けをしてもらうなど、研修生は勿論のこと、日本の子供たちにも互いの異文化も学ぶよい機会を提供できた。

研修生にとって、学校関係や各施設見学で、最新の高度な教育環境を体験でき、様々なことを習得したこととは言うまでもないが、彼らが、この日本での研修で、一番感激していたことは、日本人の細やかなおもてなしの心の素晴らしさであった。

異文化との交流は、理解につながり、融和への道となり、世界平和への一歩となる。研修生たちが、今回の来日で習得した経験を、彼らの生徒達に広め、その子供たちや次の世代に引き継がれていって、将来なんらかの形になってくれればと切望する。

5/15(火)午後到着	5/16(水)関市立小学校(安桜)、保育園(松渓)視察
5/17(木)飛島村学園・市内施設視察	5/18(金)北名古屋市立小中学校(師勝)視察 研修生歓迎会(和貴庵)
5/19(土)トヨタ博物館等視察 研修生歓迎会(G.DINING)	5/20(日)京都観光
5/21(月)私立小学校(楫山)・実験関係(ヤガミ) 視察・栄RC例会出席	5/22(火)三菱エレベーター視察
5/23(水) 朝 出発・帰国	



小学校の授業を視察

バングラデシュ 関の安桜小訪問
女性教諭 3人



児童の授業風景を見学するバングラデシュの教諭ら＝関市いはらは町、安桜小学校

名古屋栄ロータリークラブの招きで来日しているバングラデシュの女性小学校教諭3人が16日、関市いはらは町の安桜小学校の授業を視察した。同クラブは、国際奉仕活動の一環として4年間にわたりバングラデシュの教育機関への支援を行っている。今回は教育者を日本に招き、教育環境の視察や異文化交流の場を設けようとした企画された。教諭らは15日に来日。16日から同市に滞在、安桜小と松溪保育園を視察した後、23日に帰国する。

この日、安桜小を訪れた教諭らは、特別支援学級や1～5年生の算数や国語の授業を視察。図書館やカウンセリング教室などの教育施設も見学した。サンジーラ・ハーケさん（35）は「音楽や図工などの特別教室が多くあることに驚いた。専門分野の知識を深めるにはとてもいいこと」と話した。（水野晶子）

事業名 : カンボジア コンポット地区教育医療支援

クラブ名 : 名古屋丸の内 RC

クラブ会長 : 長谷川龍伸

クラブ国際奉仕委員長 : 高山 進

報告書作成者 : 高山 進

相手国及び地域 : カンボジア cc コンポット州

協力RC又は協力団体 : 協力RCなし 現地協力者 Dr. Kean Teck

総予算(内クラブ負担額) : 634,967 円 (416,425 円)

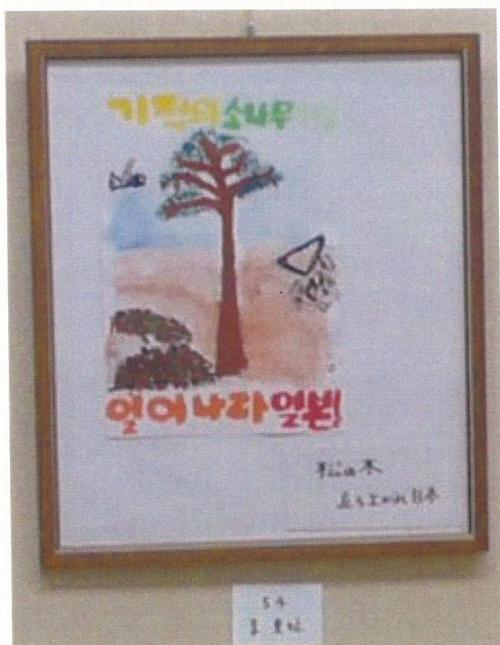
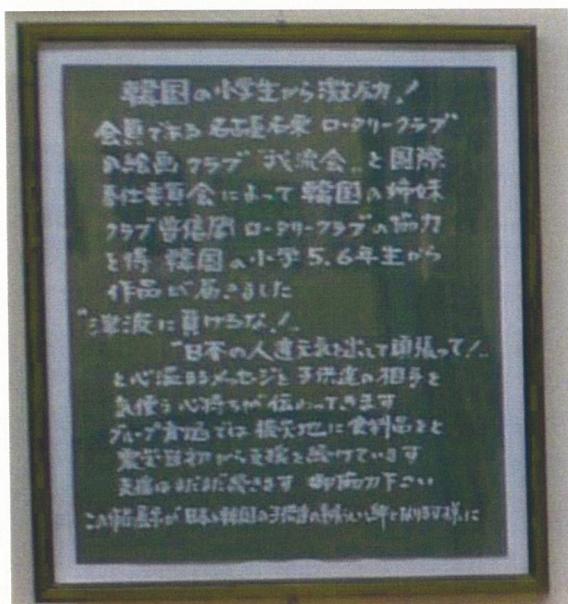
事業内容 :

当クラブがカンボジア王国 コンポット州コンポット郡に建設をした診療所に、プロンペンよりDr. テックが週1～3回赴き診療を行っているが、医療品の不足により充分な診療が行えないのが現状である。特に雨水使用による幼児、小学生の腹痛など健康を害している。医療品の支援援助を行うことにより、軽度な疾病の重症化を未然防止する事が出来る。また、ロータリアン自らが現地訪問する事により、現実をも把握し対応策も考慮出来る。更には、隣接する小中学校の生徒に対しては、鉛筆・ノート等文具を現地にて調達して配布する事により、向学心も期待する事が出来る。



事業名 : 第40回 グループ青焰展への児童画募集

クラブ名 : 名古屋-名東 RC
クラブ会長 : 湯浅勝治
クラブ国際奉仕委員長 : 鹿養和良
報告書作成者 : 鹿養和良
相手国及び地位 : 韓国ソウル
協力RCまたは協力団体 : ソウル普信閣RC(姉妹クラブ)、青焰美術研究所
総予算(内クラブ負担額) : 約30万円(内クラブ負担:有志寄付)
事業内容 : 姉妹クラブである、ソウル普信閣ロータリークラブの関係者
者の子弟の小学校5年、6年生から「東日本大震災に関する絵画」を描いてもらい、約50点 5月2日～6日の5日間、名古屋市博物館3Fで開催された第40回 グループ青焰展に展示させて頂きました。



事業名 : 水(貯水槽設備)プロジェクト

クラブ名 : 名古屋-名東 RC
クラブ会長 : 湯浅勝治
クラブ国際奉仕委員長 : 鹿養和良
報告書作成者 : 鹿養和良
相手国及び地域 : Indonesia Bali 島
協力RCまたは協力団体 : Bali Taman RC (3400 地区)
総予算(内クラブ負担額) : グローバル補助金申請(内クラブ負担額 : 未定)
事業内容 : Bali 島東部の一部の地域では、水資源の確保が急務で
あり Bali Taman RC が貯水槽建設の資材費を負担し、現地の人達が実際の建設工
事を実施している。(水プロジェクト)
現在 Indonesia が、パイロット地区である事から名古屋-名東 RC でグローバル補助
金を申請し、協力する準備をしている。
水プロジェクトの概要は、次の通りです。

Indonesia Bali 島 水(貯水槽設置)プロジェクト

1. 6つの重点分野の
 - ③ 水と衛生設備(水資源確保)
 - ⑤ 基本的教育と識字率向上(水の運搬に半日以上掛かり、大半が子供達の仕事になって
おり、学校に行けない子供が多い。)
- に該当する。



2. 地元社会では、まだまだ貯水槽が不足しており、Bali Taman RC が、材料資金を拠出し、地元住民が、労働力を提供して完成させている。
3. 持続可能性
Bali Taman RC が、昨年設立 20 周年となり、その記念事業として、現在 20ヶ所に貯水槽設置を計画しており、現地では、まだまだ貯水槽は必要とのこと。
4. 貯水槽（4m × 5m × 4m）及び配管の材料費は、Rp.10,231,000（約 105,000 円）で労務費は含まれていず、地元住民が共同で制作、設置している。
5. 各家庭の引込み配管には、それぞれ給水メーターが、設置されており、各家庭では、各自使用した分だけ使用料を村に支払、その集まった資金を利用して村全体の事業に役立てる様にしている

以上



キャンヘルプタイランド活動報告

運営委員 坂 茂樹

タイの子どもたちの教育支援をしている NGO キャンヘルプタイランドです。千種ロータリークラブ様には大変お世話になっております。



2011 年度の奨学金プログラムの活動では、日本のドナーの皆様からお預かりした尊い支援金を奨学金として 233 名のタイの子どもたちへ直接届ける事が出来ました。

また、チェンマイ県にある山岳部に住む少数民族の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」へ寮の改修資金を援助し、子どもたちがより良い環境で生活できるようになりました。

タイの子どもたちの教育環境は平均すれば毎年少しづつ改善されていますが、日本と同様に格差はどんどん広がっていきます。教育のセーフティーネットとしての奨学金支援をこれからも続けていきますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

事業名 : ベトナム・ホーチミン市の養護施設への寄付

クラブ名 : 名古屋東山RC

クラブ会長 : 谷村 茂

クラブ国際奉仕委員長 : 松野一彦

報告書作成者 : 松野一彦

相手国及び地域 : ベトナム社会主義共和国 cc

協力RC又は協力団体 : なし

総予算(内クラブ負担額) : 39, 421円 (39, 421円)

事業内容 :

- 対象施設；名称はHOA-HONG-NHO、家庭内暴力や両親が無く家族では扶養できない18歳までの少女を対象に、社会へ送り出すために、一般教育や就職出来る様な縫製、洗髪などの職業技能を教えている施設です。
- 2010年9月に、東山RCメンバーのベトナム工場竣工式に有志12名でベトナムへ行った際、この企業が数年前より食料や衣類を寄付援助していたこの養護施設を訪問。
この際、皆でお金出し合い扇風機3台と冷蔵庫を寄付してきました。
今回は、12名の有志で訪問し、教育に役立ててもらえるように大型テレビとDVDプレーヤーを寄付してきました。



2011～2012年度 国際奉仕活動報告書

豊橋ロータリークラブ

期間：2011年11月10日（木）～11月14日（月）

メンバー：高山幹事、森田会員、鈴木会員、岡田国際奉仕委員長

訪問先：タイ国バンコク ベンジャシリRC、チェンライ県ラックペインティング村

経緯：豊橋RCは、WCS活動の一環として1998年～1999年度佐藤修次会長、森田通夫国際奉仕委員長の時に独自に3350地区（タイ国）ベンジャシリRCと協力して、チェンライ県ラックペインティング村の山岳民族の定住化支援活動とその子供たちへの教育支援に会員が毎年現地を訪問して寄付を続けています。

WCS活動開始10周年を記念して「ラックペインティング村あしながおじさん奨学金」を募り、今まで続けてきた豊橋RC支援金の他に、会員の皆様の善意でまとまった額の奨学金を子供たちの教育資金にと考え、実施しております。

前年度（2010年～2011年）は、60周年記念事業としてベンジャシリRCと姉妹クラブ調印も致しました。

今年度、姉妹提携後ということで、17名の参加者で訪問することが決まっておりましたが、タイの洪水の為、多人数の訪問は自粛し、4名の訪問とさせていただきました。

*2011,11,10 豊橋RCとスカイプでバンコク スイスロッジビジネスセンターより



「東愛知新聞、平成23年11月12日の記事から」

豊橋ロータリークラブ（宮田正人会長）は10日夜、姉妹クラブのタイ国バンコク・ベンジャシリRC（ポンサトーン会長）と、スカイプ（インターネットを利用した通話）で交流した。同日から17人の訪問団がタイを訪れる予定だったが、洪水災害のため、高山景一幹事と岡田直樹国際奉仕委員長ら4人の訪問に切り替えた。現地で洪水被害見舞金や教育支援金など贈るライブ映像が大型スクリーンに写され、両会長が画面を通じて対談した。

（杉浦文夫）

タイ国山岳地帯の焼畑農業から低地農業に転換への支援をきっかけに12年前、姉妹友好を結んだ両クラブ。近年は同支援に加え、定住を始めたラックペンドィング村への教育支援活動として会員から募った「あしながおじさん奨学金」を現地で手渡している。

今回、17人の訪問団中止の代わりにアークリッシュ豊橋で「タイ王国との交流」例会を開き、両クラブ員たちがネットを通じて交流。

現地で岡田委員長からポンサトーン会長に、豊橋RCからの洪水お見舞金20万円、教育支援金10万円、高山幹事から会員から集めたあしなが基金50万円をそれぞれ贈ったほか、新地区補助金事業の土壤分析機（10万円相当）を手渡す様子などが、会場の映像で流された。

スクリーンに、交流開始時のソムチャイ元会長やアピチャット前会長の姿、贈られた教育支援金がポンサトーン会長から、定住村で教育活動を続けるプラティープ博士に渡す様子などが映し出されるたびに、会場の豊橋RCの会員らも拍手。

豊橋からも佐藤脩次、松井英治郎両パスト会長らが交流の歴史や意義を語る映像がタイへ届けられた。

プラティープ博士は「焼畑農業は山林の保水能力の低下を起こし、ひんぱんに起る洪水の原因の一つ。災害を少しでも減らすため、定置農業化を促進したい」と、豊橋RCの支援に感謝。あしなが基金も「こどもたち一人ひとりに分配します」と語った。（東愛知新聞、記事）



*チェンライ県ラックペインティング村 奨学金授与



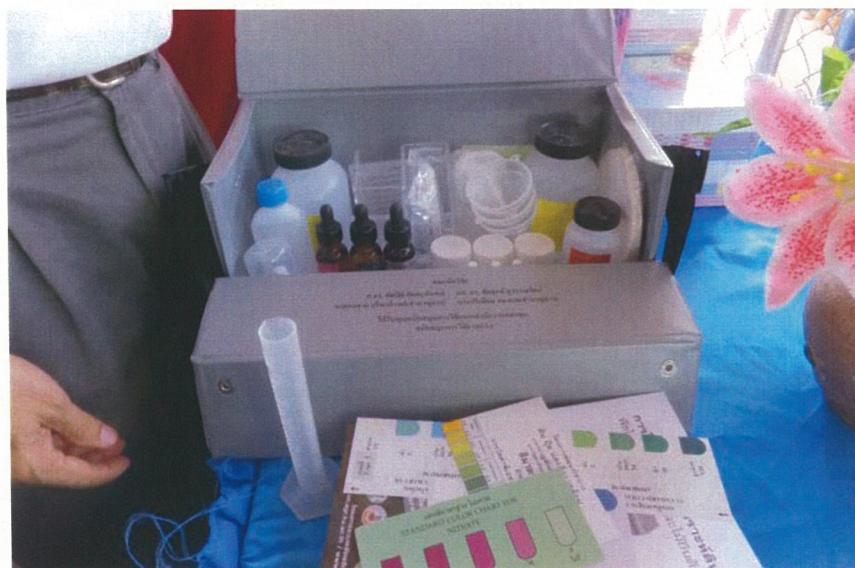
*あしながおじさん奨学金授与の様子



*寮生活している子供たちにお米や学用品の贈呈



農業及び環境により土づくりの為の土壤分析機 10 台、財源を寄贈、地区補助金対象事業



事業名 : フィリピン・サンディワアン幼稚園栄養給食プログラム

クラブ名 : 豊橋北 RC

クラブ会長 : 西村良彦

クラブ国際奉仕委員長 : 山本忠男

報告書作成者 : 夏目國弘

相手国及び地域 : フィリピン cc

協力 RC 又は協力団体 : ライズエイジア 上田敏博

総予算 (内クラブ負担額) : 397,221 円 (215,061 円)

事業内容 :

2011 - 2012 豊橋北ロータリークラブはフィリピンの NGO サンディワアン・ラーニングセンターが運営している創立 26 年の「サンディワアン・マニラ・ディアセンター」に「栄養給食プログラム」を実施致しました。

当センターは 3~5 歳の幼稚園児の年間平均 500 人を 7 人の教諭が担当し教鞭をとっています。行政期間 社会開発福祉省の指導の元、1 セッションは朝 8~10 時、2 セッションは 10~12 時、1 日 2 時間の授業を 2 セッション行なっています。スマーキングマウンテンの子供達に必要なことは健康です。500 人の園児の内、80% が栄養失調児でした。

この栄養失調児に対し当豊橋北 RC は園児の栄養改善をする「栄養給食プログラム」を週 1 回金曜日、2011 年 7 月から 2012 年 3 月まで、先生や園児のお母さん、ボランティアの人達にお手伝いを頂き実施しました。

2011 年 7 月に 500 人の園児の栄養失調の度合いを把握する為に先生達に園児達の体重を量って頂きました。当初 80% の栄養失調児でしたが、2012 年 3 月に再度体重測定を実施しました。その結果 50% の栄養失調児の数値がでました。

栄養給食プログラムの成果が上がり栄養失調児が減少しました。

当クラブの西村会長、国際奉仕委員長を始め 9 名のメンバーで 2011 年 9 月 23 日~25 日に掛けて「サンディワアン・マニラ・ディアセンター」を訪問し幼稚園児に直接給食を手渡して来ました。

事業名 : 姉妹提携『台湾：岡山RC』親善訪問

クラブ名 : 豊川 RC
クラブ会長 : 鈴木栄一
クラブ国際奉仕委員長 : 市川栄二
報告書作成者 : 市川栄二
相手国及び地域 : 台湾 cc 高雄
協力RC又は協力団体 :
総予算(内クラブ負担額) : 3,000,000 円 (600,000 円)
事業内容 : (内容につきましては写真も折込、A4用紙で自由にお使い下さい。)

親善訪問: 2011年～2012年度 2012年4月20日(金)～22日(日)

今回の台湾：岡山RC訪問は、昨年発生した東日本大震災発生に対し、台湾側より日本の被災者に寄付されたWCS（世界社会奉仕）に感謝し、友好の証としての親善訪問を実施した。

今後とも相互クラブの絆を深め、より一層の交流を持つことに大きな意味があるものと信じています。

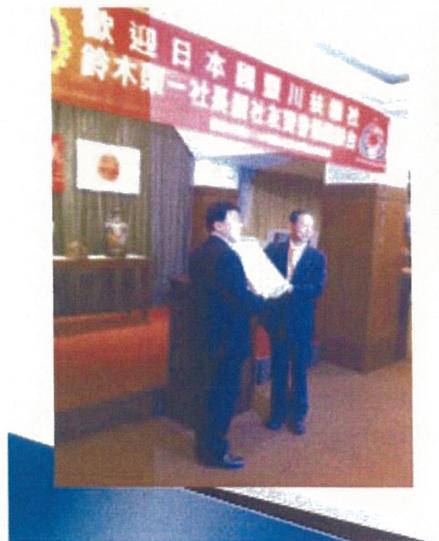
姉妹クラブ直近の交流事例



2011(平成23)年～2012(平成24)年度

台湾

2012年4月20～22日 台湾 岡山RC訪問



「サバイディ！」はラオス語で「こんにちは！」私たちが訪問した1月24日は乾季ですが、気温は29度。とても暑かったですが、からつとしていてさわやかな日でした。

2760地区では5年前からラオスで小学校を立てる事業を続けており、校舎は作ったがその後の支援をしていないので、文房具などを届けてくれるクラブを探していると打診があり、ラオスからの米山奨学生を預かっているクラブとして、ご縁を感じて行くことに決定しました。訪問には留学生が同行して現地の案内をしてくれました。

スケジュールは1月24日11時に中部国際空港を出発し6時間後にバンコクに到着。3時間待ちでラオスの首都ビエンチャンに向けて出発。現地時間21時30分到着。翌日の25日はビエンチャン市内でパソコンや文房具などを購入し、ラオス国営航空の最新ジェット機で北部にある世界遺産の街ルアンパバーンに向かいました。ワットタート寺院の見学やナイトマーケットでの買い物もし、夜は留学生の友人たちと食事をして「ドラえもん」や「上を向いて歩こう」などの歌を一緒に歌い、大いに友好を深めました。

最終日26日は朝6時に起床して山岳道路を2時間ほど走破して目的のハットファイ小学校に到着しました。約200人ほどの子供たちに花束や拍手で迎えられ、長老たちの歓迎の儀式を受けました。豊橋技術科学大学に在学するラオス人留学生11名が徹夜で翻訳してくれた日本の絵本は大人気でした。この地域の村で一号機となるパソコンは留学生がセッティングし、簡単な操作指導も行いました。そのほかに寄贈したものはプリンター・デジカメ・ノート・ボールペン・鉛筆・サッカーやバレーボールなどです。これは、留学生の家族がここの校長先生にいるもの聞き取りしてくれて調達しました。委員会事業費は10万円ほどでしたが、暖かいメンバーからの浄財もあり、学校が望むものを贈ることができました。わずかな予算と日程でも思い出深い訪問ができました。ラオスはアジアの最貧国の一つに挙げられていますが、国民性は物静かで優しく、のんびりしておおらかな人が多いと感じました。日本の暮らしのようにストレスがなく、物質で豊かな国より心の豊かさが大切だとこの旅行を通じて痛感しました。家族を大切にし、地域や自分の国を大事に思う。そうした人々が作る世界こそが我々の理想なのではないでしょうか？

そんな、人間の幸せを体感できるラオスに皆さんも行ってみてはいかがですか！

そして、まだまだ日本が世界に果たす役割はたくさんあることを実感してください！



2011-12年度 岡崎RC国際奉仕活動報告

岡崎ロータリークラブ

国際奉仕委員長 鋤柄禎彰

愛知教育大学附属岡崎小学校国際交流事業「2011 Exchange Burris and Okazaki」への支援及びパリス校児童受け入れ報告会の開催

1 ねらい

- (1) パリス校児童の交流訪問を通して、子どもの異文化理解の推進を図る。
- (2) 児童英語の時間だけでなく、くすのき学科等の時間などを有効活用することで、人々の暮らしや文化への興味・関心の喚起する。
- (3) 受け入れ交流の準備段階から実践を通して、附属小学校の児童及び職員の協力体制のより強化を図る。



もたち
習や教
諸外国
起を図
て、附

2 パリス校来岡訪問の日程

平成23年10月21日(金)～28日(金)

3 受け入れ家庭と来岡児童・引率教諭

- ・引率教諭 2名 Christina Coelho, Christy Wauzzinski
- ・受入家庭と受入児童 (受入家庭8, 受入児童15)
 - 4の1 星 輝 James Roysdon (grade 5), Cameron McCullaugh (grade 6)
 - 4の2 神谷 龍 Daniel Lloyd (grade 5), Coly Tabberson (grade 6)
 - 6の2 黒柳 鼓笛 Luke Fluhler (grade 5), Carter Durham (grade 7)
 - 6の3 小島 航太 Dmitri Bohanon (grade 7)
 - 6の3 福田 捷人 David Dale (grade 5), Jack Elvin (grade 5)
 - 6の2 杉山 陽香 Taylor Hunt (grade 6), Giselle Brey (grade 6)
 - 6の3 磯谷綾美佳 Reilly Livingston (grade 6), Hanna Komanapalli (grade 7)
 - 6の3 田中 美帆 Leila Ray Elbahlaoui (grade 6), Lillyanna Jones (grade 6)

4 来岡中の活動報告



10月21日（金）

パリス校から訪問児童、引率教師がセントレアに到着。

校務主任、国際交流担当英語教師が迎えに行く。

19:00頃 セントレア着、観光バスにて岡崎へ

21:00 市民会館駐車場に到着予定

21:15 駐車場でホストファミリーと対面



※引率教師には軽食を用意し、ホテルへご案内。



10月22日（土）

引率教諭は、おかざきっ子展を見学。

岡崎市の子どもの美術・図工作品が一堂に集まった会場や子どものたちの力作に感動をされた。興味深く作品を見るだけでなく、たくさんの記録をとられ、戻った後、美術担当教員にこの展覧会のことを伝えたいとのことであった。

また、おかざきっ子展の責任者である岡崎市現職研修委員会美術・図工部長とも懇談し、この展覧会にかける教員の気持ちやこの会の意義について話を聞いた。

近藤講師が通訳をするたびに、感動を深められた。



10月23日（日）

社会見学 小原和紙紙すき体験・トヨタ博物館

日中は、紙すき体験や博物館の見学を通して、日本の文化や産業技術について触れた。紙すき体験でつくった作品は、その日の18:00から学校で行われたウェルカムパーティーで披露された。





ウェルカムパーティーでは、ホストファミリーだけでなく、平成22年度にポールステイト大学附属パリス校を訪問した児童生徒や関係保護者も参加し、和気藹々としたなかで、15名の子どもたちと2名の引率者を歓迎した。



10月24日（月）～27日（木）

8:00 ホストファミリーの児童とパリス校の子どもで登校。

朝、児童集会のなかで、オープニングセレモニーを行った。

パリス校児童の自己紹介、児童会からの歓迎のことばなど、学校での子ども同士の交流が始まった。



主に、午前中は、学校内での交流を行い、午後は、石工団地や岡崎城などの社会見学と愛知教育大学への訪問（学長表敬訪問）・大学生との交流というプログラムで交流を進めた。

※各クラスでの交流は、書道、和紙のちぎり絵、折り紙などの日本の文化を伝えるものと、英語でのゲーム（アメリカ式のじゃんけんゲーム等）のように英語を使ったもの、スポーツ交流などを織り交ぜた計画を各学級で立てた。



また、その期間中（27日）に行われた父母教師会主催の文化公演会に、5・6年生、保護者とともにパリス校の児童も参加し、オーケストラに触れることができた。



※社会見学では石工団地を訪問し、岡崎の産業について触れる機会を得た。また、石に触れたり割ったりする体験もすることができた。

また、岡崎城の見学では、「葵」武将隊とも一緒になった。



これらの交流には、多くの通訳ボランティアにお世話になった。保護者だけでなく、以前、パリス校を訪問した中学生が通訳ボランティアとして岡崎城の説明をしてくれるなど、交流が継続していることを感じた。



10月26日（水）

表敬訪問（学長訪問、大学生との交流、岡崎ロータリークラブでの報告）を行う。

学長訪問では、学長と懇談し、この交流で得たものを発言するパリス校児童の姿が見られた。大学生との交流では、空手部の学生との交流、茶道部の学生との交流を行い、日本の文化に触れた。



岡崎ロータリークラブには、代表児童2名、引率教員1名、本校副校長、主幹、英語講師が訪問した。例会のなかで活動に対するご支援へのお礼と活動報告の機会を与えていただいた。岡崎ロータリークラブの温かいお支えを実感できる貴重な機会となった。



10月27日（木）

27日のクロージングセレモニーでは、子ども同士の歌による交流、プレゼント交換などを行い、再会を誓い合った。

また、この日、引率教員との「パリス校交流のあり方懇談会」を開き、継続可能な今後の交流のあり方について懇談した。

この交流は、平成20年度に再開したものである。子どもたちの笑顔、ホストファミリーの子どもたちのお別れの涙などからは、着実に成果をあげ、お互いの信頼が深いものになっていることを感じることができた。

以上、愛知教育大学附属岡崎小学校 校務主任 石原清史先生からの受け入れ報告を引用して報告書とさせていただきます

事業名 : ナザレ園慰問訪問

クラブ名 : 岡崎南 RC

クラブ会長 : 小久保文雄

クラブ国際奉仕委員長 : 岡田庄璽

報告書作成者 : 鈴木良郎

相手国及び地域 : 韓国慶州

協力RC又は協力団体 : なし

総予算(内クラブ負担額) : 220,000 円 (120,000 円)

実施事業内容

開催目的

戦後50年以上を経過しましたが、依然として多くの日本人の身寄りの無いご老人が韓国内に多数おいでになります。ナザレ園で暮らす方々はそのほんの一部だそうです。お金の援助をしていて、ナザレ園に入園を待っている方々は、まだまだ絶えないみたいです。

韓国の方々がそんな援助している中、我々岡崎南 RC のメンバーが出来る事はお金の援助だけでなく、毎年訪問して入所している方々に日本から日本人が来たよという笑顔を送ることです。またそれが真の国際奉仕であると思います。



慶州 ナザレ園



記念品贈答



訪問風景



園長先生からの謝辞・施設・現状説明

2760 地区 豊田西ロータリークラブ
2011～2012 年度 国際奉仕委員会 伊藤信裕

豊田西ロータリークラブ WCS 活動報告

- 1) 2011 年 10 月 豊田国際交流協会への図書寄贈目録贈呈
(10 万円)

- 2) 2012 年 2 月 2012 年 2 月 6・7・8 日の 2 泊 3 日にて訪問
台湾・榮光養育院への WCS 活動
過去 3 年に渡る台湾・榮光養育院へ活動を今年も行った。
文具一式 10 万円寄贈と施設見学と養育院の先生方と子供達との交流を図った。
会長・副会長以下約 10 名のメンバーで訪問をした。



事業名 : 1.アマゾン植林事業助成

クラブ名 : 岡崎東 RC

クラブ会長 : 小木曾進

クラブ国際奉仕委員長 : 楣山良三

報告書作成者 : 楣山良三

相手国及び地域 : ブラジル ccアマゾンカスタニアル

協力 RC 又は協力団体 : アマゾニア森林保護植林協会

総予算 (内クラブ負担額) : 100000 円 (100000 円)

事業内容 :

アマゾニア森林保護植林協会の長坂優会長は、大学卒業と同時にアマゾンに移住され、苦労の末、現地日本人団体や福祉団体の要職を歴任後現職に就かれた方です。たまたま当クラブ長坂勲会員の弟様であるというご縁から、2000~2001年度より植林事業の助成をさせていただくことなり、継続事業として現在に至っております。地球の裏側ということもあり、長坂優氏の来日時に例会にお越し願い、助成金をお渡しし、卓話にて報告をしていただくという形式を長年とってまいりましたが、昨年度ようやく4名の会員が58時間のフライトを経て現地を訪れ、自らの手で植林をし、成果を確認してまいりました。また現地の2つのロータリークラブとも交流をしてまいりました。初期に植林した樹木は、すでに20メートルに達するものもあり、野生の生物も戻りつつあるということでこれまでの助成の成果に自信を持つことができました。今後もこの助成を継続していく予定です。

事業名 : 2.カンボジア教育支援事業

クラブ名 : 岡崎東 RC

クラブ会長 : 小木曾進

クラブ国際奉仕委員長 : 楫山良三

報告書作成者 : 楫山良三

相手国及び地域 : カンボジア cc

協力RC又は協力団体 : _____

総予算(内クラブ負担額) : 50000円 (50000円)

事業内容 :

当クラブの米山奨学生であったコン・ティリ氏の橋渡しで、2009～2010年度より3年間の予定で始めた事業です。

カンボジア・キタゴイ小学校への支援で、最初の2年間は校舎建造への支援、3年目は浄水・水道設備の支援を行いました。3年間とも現地視察を行い、その折には、政府要人も訪れ、盛大なセレモニーを開いていただきました。

立派な校舎が完成し、近隣住民も含めて直接飲むことのできる浄水・水道設備が出来上りました。3年計画ということではありましたが、まだまだ学校の備品などが不足しているということで、本年も5万円の金銭支援をコン・ティリ氏を通じてさせていただきました。

事業名 : ミャンマー教育支援 (奨学金支給)
 クラブ名 : 岡崎城南 RC
 クラブ会長 : 桐渕 利次
 クラブ国際奉仕委員長 : 松永 茂夫
 報告書作成者 : 松永 茂夫
 相手国及び地域 : ミャンマー ヤンゴン
 協力RC又は協力団体 : 現地有力者
 現地訪問時期 : 2012年2月9日から2月13日
 総予算(内クラブ負担額) : 円 (348,000 円)

岡崎城南ロータリークラブは 1998年ミャンマーの米山奨学生(現在我クラブメンバー)を受け入れたのを機会に、1999年より現地に図書館建設、井戸、道路などの建設支援を行ってきました。2008年からはクラブ創立20周年の周年事業として、経済的に恵まれない優秀な医学生への奨学金支援を行っております。今回が4回目で、以前より有志によりおこなっています「あおい奨学会」との奨学生も含めるとすでに20名以上になります。

今回も新たに2名の奨学生を含む8名と、「あおい奨学会」の奨学生7名、の15名に奨学金を届けにミャンマーを訪りました。

奨学金支給額は年間500\$ (1.2.3年生) から 600\$ (4年生)

奨学金支給の式典はヤンゴンのレストランに、学生たちを招待して行いました。彼らにはそれぞれの担当スponサーより、医療用聴診器や血圧計、デジタルカメラ等のプレゼントが渡されました。

デジタルカメラは彼らにとって贅沢品のようですが、医療実習での画像記録や、後ほどわれわれに提出するレポートで有効に活用されております。



奨学金 支給式 (新奨学生)

新奨学生と ロータリーメンバー(新会員)



奨学生とロータリーメンバー（ヤンゴンにて）



左から2人目の女性が現地協力者（キンララ・モー）氏

事業名 : ネパール チェパン小民族に対する貧困撲滅のための事業

クラブ名 : 豊田三好 RC

クラブ会長 : 加藤正志

クラブ国際奉仕委員長 : 岡田佳大

報告書作成者 : 岡田佳大

相手国及び地域 : ネパール チタワン県 cc

協力RC又は協力団体 : Ratnanager Rotary Club ネパールNGO

総予算(内クラブ負担額) : 400,000円 (229,640円)

事業内容 :

チェパン(少数民族)はネパールのカーストの下に位置し、大変貧しい生活を強いられている。彼らの生活向上を図るためハーブ農業を支援(必要な種・道具・肥料・ハーブ管理に関する教育)し、国内マーケットや海外へ輸出することにより経済的に自立させる。

実施日: 2011年10月1日～2012年9月30日 (366日間)

場所: チタワン県サクティコール他2村

恩恵を受けた人々: チェパン族 サクティコール村10世帯・カウレ村10世帯・ワースバン村10世帯

事業名 : タイ・チェンライ植林活動「刈谷の森」

クラブ名 : 刈谷 RC

クラブ会長 : 杉浦世志朗

クラブ国際奉仕委員長 : 加藤 哲也

報告書作成者 : 加藤 哲也

相手国及び地域 : タイ・チェンライ

協力 RC 又は協力団体 : オイスカ・タイランド

総予算 (内クラブ負担額) : 300,000 円 (300,000 円)

事業内容 :

《活動目的》

地域住民との協働による植林活動の実施を通して地域の森林を再生するとともに、
啓発活動を通して自然環境と共生した発展について住民意識の向上を目指す。

《活動内容》

期間 : 2010~2014 年 (5 年間)

場所 : タイ北部 チェンライ県チェンコーン郡

内容 : 地域住民を中心に植林グループを結成し、チークを植林・管理。



20

12年2月15日(水)~19日(日) 植林活動

平成 24 年 5 月 25 日

安城ロータリークラブ

カンボジア井戸作り IN シエムリアップ

報告者

国際奉仕委員会 委員長 市川 譲

今年度、沓名会長の ENJOY ROTARY 国際奉仕活動は、見える形で、

行動したいとの命を受け、平成 24 年 1 月 16 日から 1 月の 19 日迄の 4 日間、

カンボジアに井戸を寄贈しようと、以下の皆さんと、遠征して参りました。

沓名俊裕会長 永谷文人幹事 丸山光夫さん 成田孝則さん 富岡里美さん

恒川憲一さん 奥田法行さん 石川義典さん 市川 譲の 9 名です。



1 月 16 日中部国際航空から、ベトナム航空に乗りベトナムを経由して、カンボジアに入りました。「付いた途端に暑いです。」

当日は、ホテルについて食事をして終わりました。

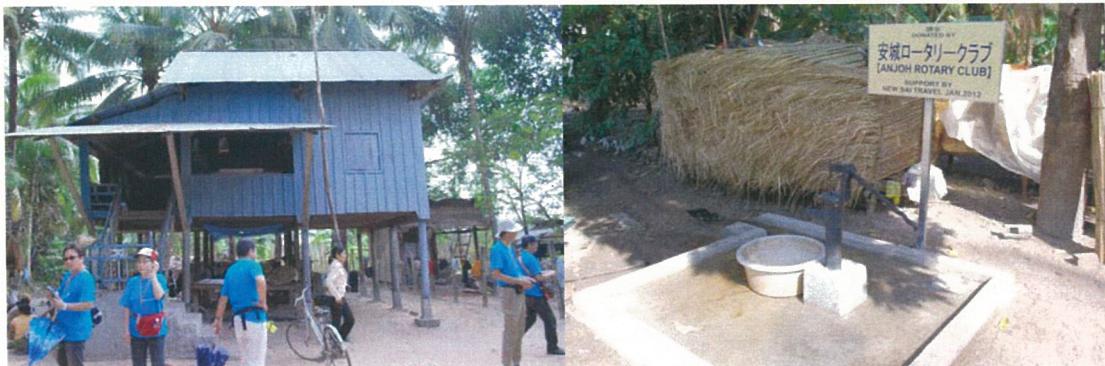
1 月 17 日は、アンコールワットのサンライズを見るために、皆で早起きして暗い中を歩いたのに、曇り空で少し残念でした。

日中は、アンコールワットの象に乗り、砂岩の彫刻をみて、最後はアンコールワットのサンセットを見て、疲れました。



1月18日は、午前中に山間部の、農村に井戸の完成式典に出向きました。

そこには、高床式の立派な家があり、敷地もかなりあるよう感じました。



1月の初旬に、井戸は21m掘られ、水が出るようになっていたようです。



現地に、行って見て、初めて知るロータリー活動に、改めて感謝致しました。

それから、皆とおそろいのブルーのティーシャツを現地の人々にプレゼントをする。

仲間の振る舞いに、感心ました。



式典が終わり、食事をしてから、
帰国の準備で慌ただしいスケジュールをこなし、
無事にベトナム航空で帰還する事が出来ました。

例会で、事業報告を致しました。

現地でまだ、5名の方が、私達にも井戸をとお願いの
要望が有り、会員にカンパを呼び掛け、もう1つ井戸の予算を作り、カンボジアに今年度2つの井戸を作れ
ました。

会員の皆さん、本当にありがとうございました。

三河安城ロータリークラブ

鳥居剛育様

2011～12年度

国際奉仕委員会報告

一色ロータリークラブ国際奉仕委員会

委員長 神谷 正康

一色ロータリークラブは、以前「国際の一色」と自負するほど国際奉仕に全力を傾けていました。地区的国際奉仕小委員会に故加藤 博氏を委員長にだし、フィリピンのWCSに協力し、アメリカ カリフォルニア州(第5170地区)のサン リアンドロRCと姉妹提携し、国際大会のあとに10数名で訪問したり、台湾台北大会のときは一色RCで歓迎例会を開催していました。しかし、加藤 博氏が亡くなり最近10年ほど交流はほとんどありませんでした。

今回、東日本大震災にサン リアンドロRCより義援金を受け取り、また交流が再開し今回のバンコクの国際大会の帰りに是非一色RCを訪問したいと連絡があり、アイバン・コーネリアス氏(第5170地区 パストカバナー)を団長とし総勢11名が5月11日～14日まで滞在されました。

11日はファーストミーティングディナーとし、お互いに顔合わせをし、12日は、ラグーナ蒲郡を散策、西尾 歴史公園でお城眺めながら抹茶を楽しんでいただきました。「日本の古い歴史、文化を堪能しました」の感想でした。夕方から会員の竜宮ホテルで「歓迎例会」を開催しました。「歓迎例会」ではボイスカウト鼓笛隊の歓迎演奏に始まり、両国国歌の斎唱、会長歓迎挨拶及び義援金の御礼をしました。サン リアンドロRCのアイバン氏よりメンバーの紹介がありました。その後パーティーに移り日本太鼓の演奏、安城芸子さんに日舞を踊っていただきました。最後に「手にてつないで」で終宴としました。 13日は伊勢神宮をお参りし、おかげ横町でおみやげを買いながら散策しました。夕方、衣浦グランドホテルで最後のディナーを楽しくいただきました。サン リアンドロRCの会員より「この3日間、ホームクラブに出席しているような感じでした。今度一色RCのメンバーの皆様にサン リアンドロRCにホームクラブのように訪問していただきたい」とうれしい言葉をいただきました。会食中にはクラブの情報はもちろん「日本の電力は足りるのか?」とか「サンフランシスコ湾の入口に波の力を利用した発電の計画がある」などの話もありました。こうした国際間の理解と親睦が国際平和につながっていくのではないかと感じました。



事業名	
クラブ名	高浜ＲＣ
クラブ会長	笠松 栄治
クラブ国際奉仕委員長	川角年比古
報告書作成者	川角年比古
相手国及び地域	タイ
協力ＲＣ又は協力団体	無し
クラブ予算	5万円

事 業 内 容

WCS活動として、地区WCSに一任する方法ではなく、タイ北部のチェンマイ市のバーンロムサイ（両親をエイズで亡くし、自分たちもHIVに母子感染した孤児たちの生活施設）にクラブ予算5万円及びクラブ会員有志の浄財を合わせて10万円を直接手渡しにて寄贈することができました。

知立ロータリークラブ WCS 事業活動報告

本年度、当クラブは国際奉仕委員会の事業としてタイ王国／チェンマイでの先天性心臓疾患の子供に対しての手術に関わる資金支援。並びに保健、医療施設での研修、プログラム（HIV/AIDS 予防等）に対しての物品支援を行いました。これは昨年度、当クラブが 20 周年の周年事業で国際貢献活動の一部として行った事業ですが、事業視察に参加し現地に赴いた時、担当される医師、看護師の皆さんの中でも多くの子供たちを救おうという熱い情熱や疾患に対する予防の知識、技術等の教育支援の素晴らしさを実感したからです。事業は国際保健医療支援団体認定 NPO 法人ピープル・ホープ・ジャパン（PHJ）を窓口に協力を得て昨年の秋口から順次開始し心臓疾患の手術を施術していただく方向で進めて参りました。しかし支援にも限度があり今年度は 4 名の子供の手術しかできませんでした。それも先の洪水の影響で病院も忙しくしていたとも聞き及んでいました。地区で云う、汗をかくことのできる WCS 活動ということではありましたが、当クラブには医師や看護師がいるわけでないので直接子供たちの施術することはできません。しかし、少しでも、現地の状況や関わり方などを体験すべく、事業視察を平成 23 年 11 月に計画いたしました。しかし、ご存じのようにタイでの大洪水の影響で渡航することが無理となり、今年平成 24 年 3 月に延期いたしました。2 度目の訪問ということではありましたが、病院のスタッフの皆さんには大変お世話になり、また、チェンマイ RC のメンバーとも無事再会することが出来ました。今回印象に残ったことは HIV/AIDS 感染予防のプログラムの実施場所に訪問した際、思春期を迎える子供たちが照れながらも生き生きとした眼でプログラムに取り組んでいたことです。大人が偉そうに「あれはダメ」「これはダメ」ではなく、年の近いお兄さん、お姉さん達が自分たちの仲間と一緒にになって伝え学んでいたということです。副郡長さんのあいさつで「プログラムを経験した子供たちが家に帰り、また地域に戻りそこでまた参加していない子供たちに伝えていくことで将来の保健、衛生の知識が養われ、地域に広がっていくことが町や郡が良くなり素晴らしい地域つくりができる」とおっしゃっていました。

今後もこのような素晴らしい事業活動ができる環境が続くことを期待したいと思います。

WCS 事業活動：平成 23 年 10 月 1 日から平成 24 年 5 月半ばくらい

（手術がいつ行われるかわからないため）

事業視察：平成 24 年 3 月 18 日（日）から平成 24 年 3 月 22 日（木）

事業場所：タイ王国／チェンマイ

事業内容：*先天性心臓疾患小児の手術に関わる資金援助

*保健、医療施設での研修、プログラム（HIV/AIDS 予防等）に対しての
物品支援

協力団体：*国際保健医療支援団体認定 NPO 法人ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）

*チェンマイ大学病院

*チェンマイ・ロータリー・クラブ

*メリン郡サロン町郡町スタッフ

*HIV／AIDS 感染予防プログラム実施スタッフ

知立ロータリークラブ WCS 事業活動報告フォト



チェンマイ大学病院にて



メリン郡サロン町コミュニティセンターにて

事業名 : _____

クラブ名 : 三河安城 RC

クラブ会長 : 田村 僥

クラブ国際奉仕委員長 : 山本 彰英

報告書作成者 : 成田 徹

相手国及び地域 : チベット cc

協力 RC 又は協力団体 : チベット学校建設推進協会

総予算 (内クラブ負担額) : 0 円 (_____円)

事業内容 :

本年度、2月 25、26 日両日にわたり、『第 20 回 RYLA セミナー』のホストさせて頂きました。基調講演講師にバイマーヤンジン女史をお迎えいたしました。講師との接点のなかで、チベットの学校建設活動の事を知り、会員より募金という形で、少額ではありますが同協会に 57,000 円送金させて頂きました。

この活動は、ヤンジン女史の故郷の子供たちに教育を!との思いで始められ、今では 9 つの小学校と一つの中学校が開校され、日本とチベットの子供同士の交流も積極的に行ってみえるとの事です。

事業名は特にありませんが、WCS 活動の一環と思い、報告させて頂きます。

国際ロータリー 2760地区

2011～2012年度 各クラブの世界社会奉仕(WCS)活動一覧

2012年7月18日 現在

国際奉仕委員会活動方針・対象国							地区PJ予算	クラブ予算	活動内容	姉妹・友好・協力クラブ	備考	
南尾張分区	半常滑	田稻葉	民安	伊奈	健彦	安休止		314,000	障害児への車椅子支援	NPOワフカ(WAFCA)	総事業費405,000円	
	東海	大久保	誠人	タク	王国		900,000	奨学金及びスクーピッキン	カルカンノースRC、バサミアRC			
	東知	多矢	野晴	彦	タク	王国	100,000	水浄化設備設置	ウラジ・RC、ジアサナRC、ラブレRC、ピチャRC			
	半田	南都	篠延	男	タイ	王国	100,000	地区WCS一任	150,000	ウックラシット、放置自転車の贈呈	バンコク・スリーオンRC→スリウォンRC	
	知	多千	眞貴	彦	タイ	地区WCS一任	100,000	150,000	カンチャナブリ、図書支援、新地区補助金(13万円)	バンコク・スリーオンRC		
	大府	久	野春雄	野	タイ	フィリピン	100,000	100,000	短多国際文化交流協会への参加、過去はタイCAN HELPへ支援			
	一宮	宮松	田昌	島	藤幸	ネバール	200,000	200,000	100,000	総予算20万円、内容は調整中		
	西尾張分区	西前	西前	田正和	田正和	休止				埼玉ユネスコを通じ未就学児支援で学校建設資金募金		
一宮	北森	北森	道保	道保	道保					創立15周年式典参加	廬山江南RC	
東尾張分区	稻沢	足立	三	千夫	韓国							
あま	見玉	意之	意之	意之	意之							
名古屋	清須	森田	堅	一	地区WCS一任	100,000	100,000	地区PJ活動への参加				
尾張	中央	平	岩慎	次	地区WCS一任	0	0	0	0	0	0	0
一宮	中央	岩井	豊彦	豊彦	休止					国際奉仕・国際親善の意識の高揚活動		
瀬戸	金山	金山	金山	金山	金山	金山				留学生のバハディスカッシュを企画中、子供達の国際感覚を醸成する。	近隣で姉妹RC作りたい。	
大江	山宮	岡克	年	台湾	台湾		700,000	中学生20~30人の相互交流	台湾・草屯RC			
小牧	南松井	智義	智義	アメリカ	アメリカ		10,000	親睦を中心(総予算13,803,100円)				
春日井	崎峰	テル子	テル子	テル子	テル子		50,000					
尾張	旭唐	井仁	一	地区WCS一任	50,000	50,000				フィリピン・マカティ市で事業をしている様子です。		
名古屋	空港	水谷文昭	文昭	休止								
岩倉	倉	太伸	在日外国人	在日外国人	在日外国人		50,000	200,000	外国人の日本語スピーチコンテスト	瀬戸市国際センター		
名古屋	城北	岩太伸	岩太伸	岩太伸	岩太伸		50,000	50,000				
爱知	長久手	日野典子	日野典子	地区WCS一任	100,000	100,000				250,000	小学校の開港に合せ記念品贈呈	台北仁愛RC
R氏	古屋	豊田	豊田	豊田	豊田							R氏氏寄贈の小学校
西名古屋分区	名古屋	豊田	敦夫	敦夫	敦夫		200,000					
名古屋	西梅	木本	木本	木本	木本		50,000	50,000	8/25理事会決定最終メールあり			
名古屋	南木村	樹生	樹生	樹生	樹生		50,000	210,000	介護ホームへの医療器具寄贈	サンパウロ南RC		
名古屋	みどり	三枝樹明道	三枝樹明道	三枝樹明道	三枝樹明道		50,000					
名古屋	東南雲	和江	和江	和江	和江		100,000	100,000	ルーザートレーニングセーターの支援(女性の職業訓練)	ジャバカル・マジュン・シリ・RC		
名古屋	中小笠原	笠原	笠原	笠原	笠原							芦屋RC
名古屋	瑞穂	松岡道弘	松岡道弘	松岡道弘	松岡道弘		300,000	300,000	1987年以来事業共有及び親睦	福岡西RC		
名古屋	大須	加藤巳千彦	泰	泰	泰		1,000,000	1,000,000	チベットで水と衛生設備及び識字率向上	チエンマイRC		NGOハビタット
名古屋	栄	上坂寛文	バングラデッシュ	バングラデッシュ	バングラデッシュ		290,000	290,000	ダッカ市デムラ村教師日本招待(総予算55万円)	メトロボリタンRC		
名古屋	名南	浅井浩	台湾	台湾	台湾		30,000		親睦交流中心	台北ミニレニアムRC		個人負担
名古屋	丸の内	高円山	進	カボジア	カボジア		600,000	600,000	病院へ薬品援助と小中学校へ文具の寄贈	Dr. So Kean Tek		新地区補助金約22万円
中部	名古屋	みらい	小出真弓	小出真弓	小出真弓							
名古屋	北中村	陽公	台灣				400,000	400,000	台北西北RCとの交流	台北西北RC		
名古屋	東山田	信二					100,000					
名古屋	守中田	典子										
名古屋	和合横野	智之	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		200,000	200,000				
名古屋	東鹿養	和良	韓国	韓国	韓国		200,000	200,000	未定	ソウル普信閣RC		
名古屋	北梅村	美知容	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		50,000	50,000				
名古屋	千種	大谷	思	泰	泰		100,000	100,000	東北部への奨学金、建設、ランチ、図書支援等	Can Help Thailand		総事業費402,000円
名古屋	昭和白木勝久	白木勝久										
名古屋	錦	長谷川周義	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		100,000	100,000				
名古屋	東山	松野一彦										
名古屋	豊満	淡野哲	台湾	台湾	台湾							
東名古屋分区	豊橋	岡田直樹	タイ	王国	王国		400,000	400,000	ラックエントラベル山岳民族定住化への教育支援	バンコクヘンジヤリRC		総事業費50万円
蒲郡	大岩敏郎	敏郎	単独事業						検討中			
豊橋	北夏目國弘	國弘	フィリピン	フィリピン	フィリピン		200,000	200,000	フィリピン・サンディワーン幼稚園	NGO[ライズエイジ]		総事業費38万円
豊橋	川市川栄	二	台湾、韓国									
豊橋	原高崎雄三	三	バハヌム				100,000	100,000	姉妹クラブの親睦	台湾・高雄岡山RC、韓国・大邱達西RC		
豊橋	城丸山明敏	中宏	韓国				250,000	250,000	韓国・慶尚大学日本語学部の学生の短期留学受入	豊橋市民病院医師		総事業費50万円
豊橋	城丸山明敏	城丸山明敏	国内				200,000	200,000	市教育委員会「中学生海外派遣受け入れ事業支援」			総事業費40万円
遷	奥三河	佐々木としも	休止	休止	休止					人的、金銭的にも不ぞろい、親睦、会員増強に傾注		
豊川	宝飯渡会尚志	会尚志	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		100,000	100,000				
豊橋	ゴールデン高橋	雅男					100,000	100,000	ラオス ハットラバニ小学校に学用品の寄付			
田原	バシフィック河辺	暁雄	休止	休止	休止					担当現地で活動地での活動		
豊橋	東長居	平	文	韓国	韓国		300,000	300,000	韓国中央大学生を招待して企業訪問やホームステイ	市多文化共生国際課、国際交流協会		
岡崎	崎嶋祐徳	彰彰	彰彰	彰彰	彰彰		600,000	600,000	愛教大付属小学校国際交流事業支援及び派遣報告会開催	パリス校		総事業費110万円
豊田	渡邊寿也	寿也	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		100,000	100,000				
岡崎	南木間毅	毅	韓国、アメリカ				400,000	400,000	慶州ナザレ園訪問、ニューポートビーチ市バルボアRCと交流	バルボアRC		
豊田	西伊藤信裕	裕										
岡崎	東悟山良三	山良三					100,000	100,000				
豊田	東服部基一	休止								本年度事業見直し年度、国際奉仕についても同様		
岡崎	城南松永茂夫	ミヤンマー					614,000	614,000	医学への奨学金(教育支援)	地元協力者		2/9~2/13訪問
豊田	三好岡田佳大	大	ネバール				400,000	400,000	チューバン族のハーブ茶の栽培指導(国内外への販売)	現地NPO法人		総事業費48万円
豊田	中木戸重信	重信										
刈谷	加藤哲也	哲也	タイ	王国	王国		300,000	300,000	チエンライ地域の植林支援(オイスカ)			
安城	川護	川護	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		50,000	50,000	パンコ世界大会への参加			
西尾	杉田明弘	明弘	地区WCS一任	地区WCS一任	地区WCS一任		50,000	50,000				
碧	高浜川角年比古	年比古	休止	休止	休止							
知立	大辻明	明	タイ	王国	王国		770,000	770,000	チエンマイ大学病院子供先天性心臓疾患手術費支援(ビーグルホーブジャパン)			総事業費100万円
西尾	KIRARA高原	高原宏	ネバール									
三河	安城山本彰秀	彰秀	休止	休止	休止							

地区 任合計：Y1,000,000

タニヨ子 算合計： ¥11,000,000

R I D－3500地区大会に参加して

(2012年4月14日～15日)

R I D－3500地区の新竹南ロータリークラブより招待を受けて、当地区への表敬訪問と当地区とのプログラムの確認のために行ってまいりました。4月14日（土）12時にシェラトンホテルのロビーで待ち合せをしていました。そこに見えたのは私の案内役を買って出てくれた新竹南ロータリーの邱通称トーマスさんでした。さっそく、彼に案内されたのは、結婚式の会場でした…？ 同じロータリーの仲間の結婚式の会場でした。台湾では、テーブル毎に友だちだとか親戚だとかグループ分けされていて、私の丸い宴卓には新竹南ロータリーの仲間が入れ替り、立ち替り…。結婚式の会場で昼食を取るのは初めての経験でした。

その後近くの体育館に案内されました。そこが手作りの地区大会の会場となっていて、皆さん同併で参加していました。会場の入り口には20～30の出店ブースがあり、手作りのクッキーを配ってたり、企業ブースであったり、物品販売ブースであったりにぎやかでした。会場内に入ると、広い体育館いっぱいにイスがならべられていて、正面には大きな舞台とスクリーンが設置されていました。私が入った時にはすでに各役員がスクリーンを使って、事業報告のような事を行っていました。客席は半分程人で埋まっていましたが、舞台では真面目に延々と報告がなされていました。長い報告会も夕方5時頃になると、会場にテーブルが持ち込まれて1時間程で懇親会場になりました。舞台では役員方が話をされていても、そっちのけで各テーブルではずいぶん盛り上がっていました。そんな中地区外の唯一の訪問者である私の名前が呼ばれライトを浴びることとなりました。たいへん貴重な経験をさせていただきました。初めてR I D－3500地区の地区大会に参加して真面目な報告会と手作りのなごやかな懇親会が同じ会場で開催され、心の温かさを感じる大会でした。

途中、R I D－3500地区財団委員長の朱さんにお会いしプログラムの進捗状態についてお聞きした所、「予定が遅れているが2～3ヶ月後には申請が下りそうだ。」との事でした。

以上R I D－3500地区の地区大会に参加しての報告とさせていただきます。

R I D－2760地区世界社会奉仕委員会 鳥居 剛育

2011 年～2012 年度 2760 地区 WCS 活動報告

D-2760

世界社会奉仕委員会 委員 木村樹生
(名古屋南 RC)

本年度初めての地区出向にて世界社会奉仕委員会に出向いたしました。2012 年 2 月 25 日 19 年続くタイ国はチェンマイ地区 D-3360 に基金設置の日泰愛知奨学基 (SCHOLASHIP AWARD BY THE THAI-JAPAN ROTARY SCCHOLASHIP FOUNDATION) 引渡式典に参加して参りました。基金は日本円にして約 1600 万円。国債などの運用益として年間得られる約 70 万円を 70 人の国籍を持たない山岳民族の子供たちに寄贈しました。寄贈額は一人 3000 バーツ (約 9000 円)。子供たちの歓迎舞踊を見せていただきました。

D-3360 パストガバナー Dr. スミン氏の挨拶の中で語られた「運用益を継続するのが難しい。青少年育成センターのような施設を建設したい」とした話しを拝聴し海外でのロータリー活動の難しさを実感しました。

3360 地区内のロータリアンと 2760 地区内の交流は盛んであり、先輩諸兄が積み重ねてこられた 19 年の貴重な歴史を学ぶことができました。国際奉仕、国際親善活動の重要性が証左される活動であり今後私自身も更に勉強を重ねていきたいと思います。

その後チェンマイよりチェンラーイ、国境の町メーサイへと移動。ミャンマーへも入国し山岳民族をはじめとした様々な民族の暮らしの現状を視察することができました。

2012 年 2 月 24 日～28 日までの 4 泊 5 日。ロータリーの世界社会奉仕活動ならではの貴重な体験をすることができました。



日泰愛知奨学基金式典会場

奨学金引渡

ラオス・サワナケート保健科学短期大学学生寮増築工事の報告書

地区世界社会奉仕委員会副委員長 杉浦敏夫

この度、二度目のサワナケート訪問をして参りました。前回訪問をしてからかれこれ2年強が経過しましたが、現地の変化と言うと副校长の妹さんが学校に隣接して経営をしていた食堂の隣に新しい食堂が開かれていた位で他の変化と言えば、寮の中が少し小奇麗になっていた事くらいでした。



このプロジェクトも2年がかりでグローバル補助金を活用し、一年で終える事ができるレベルのプロジェクトだと思うが、ラオスを含む地区3360地区のガバナーに2年連続でサインを頂けなかつた事で、今回の2760地区だけの2万ドルと言う中途半端な支援となってしまいました。

今回の訪問は、建築会社への代金の直接支払いの為だけに出掛けたのですが、JICAラオス事務所の倉田様には多面に渡りお骨折り頂き感謝する次第です。また、現地でJICAの青年海外協力隊の方々とお会いし、お話しする事ができた事が大きな成果でした。サワナケート病院で産婦人科で看護師をしている田川さん、同病院で血液の検査技師をしている赤羽さん、教育大学で数学の先生達を教える



早瀬君、その奥の小学校で算数を教える矢島君の4名の若者達でした。まだ外にも4名ほどいるようでしたが、当日は急だった事もありお会いできませんでした。



私は今後とも引き続きサワナケート保健科学短期大学に関わって行くべきだと思いましたが、アクセスの悪さでは、とても遠い所と言う気がしました。幸いにも一度目の訪問時はサワナケートへはビエンチャンから車で7時間走りは入り、翌日ベトナム・フエへ車で7時間の出でしたので今回は、バンコクから往復飛行機で行けた事には佐藤委員長にお礼申し上げます。そして、是非、地区内の各クラブの皆さんにも出掛けて欲しいところでありますし、外にも活動に参加して頂きたいと願うばかりです。尚、別紙当地にて掲載されました新聞記事を参照下さい。



Rotary Club members pose with officials from Savannakhet College of Health Sciences after the donation ceremony.

Japanese Rotary Club gives funding boost to Savannakhet college

Times Reporters

The Rotary International District 2760 (Rotary Club) from Aichi Prefecture, Japan, on Tuesday visited Savannakhet College of Health Sciences to hand over a donation of US\$20,000.

The purpose of the donation is to build a dormitory to accommodate students at the college.

Chief of the Mission

and Chairman of the Rotary Club, Mr Fumiaki Sato, said "Even though this donation is not enough for the whole building it can be utilised for the first phase of the building foundations. The money has been donated by several members of our club as a sign of our close relationship."

Savannakhet College of Health Sciences mainly takes students from Khammuan and Savannakhet provinces,

but has insufficient accommodation for students whose homes are far away.

College Director Dr Sounthone Phorhisane said "The whole construction plan of the dormitory is estimated to cost US\$184,000. Even though the Rotary Club could contribute only part of this amount on this occasion, we believe we will receive further support so that we can complete construction in the

not too distant future."

The students have been suffering with insufficient and poor accommodation while the college has been trying to find the necessary financial resources to resolve the problem, but this has proved difficult.

However, thanks to this donation, construction work is to be started this month with the approval of the Ministry of Health.

Lao People's Democratic Republic